

教養教育科目

各学科共通

<教養教育科目> (各学科共通)

科目名	頁
英語 I	1
英語 I	2
英語 I	3
英語 I	4
英語 I	5
英語 I	6
英語 I	7
英語 II	8
英語 II	9
英語 II	10
英語 II	11
英語 II	12
英語 II	13
英語 II	14
英語 III	15
英語 IV	16
コミュニケーション英語 I	17
コミュニケーション英語 I	18
コミュニケーション英語 I	19
コミュニケーション英語 I	20
コミュニケーション英語 I	21
コミュニケーション英語 I	22
コミュニケーション英語 I	23
コミュニケーション英語 II	24
コミュニケーション英語 II	25
コミュニケーション英語 II	26
コミュニケーション英語 II	27
コミュニケーション英語 II	28
コミュニケーション英語 II	29
コミュニケーション英語 II	30
コミュニケーション英語 III	31
入門ハングル	32
入門ドイツ語	33
入門手話	34
基礎演習	35
専門基礎演習 (栄養)	36
専門基礎演習 (看護)	37
専門基礎演習 (社会福祉)	38
情報処理 I	39
情報処理 II	40
統計学	41

<教養教育科目> (各学科共通)

科目名	頁
スポーツ理論	42
スポーツ実技 I (栄養学科・社会福祉学科)	43
スポーツ実技 I (看護学科)	44
スポーツ実技 II	45
教育学	46
哲学	47
心理学	48
生命倫理	49
文化人類学	50
芸術文化論	51
日本国憲法	52
経済学	53
現代経済論(国際経済を含む)	54
国際関係論(国際政治を含む)	55
社会学	56
ジェンダー論	57
化学	58
生物学	59
生命科学	60
生態学	61
地球環境科学	62
地域社会論	63
北海道の地域資源	64
北海道の野外レクリエーション	65
北海道の農と食	66

科 目 名	英語 I				
担 当 教 員 名	Martin Meadows				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	The goal of this course is to develop students' reading, speaking and critical thinking skills and, at the same time, provide an enjoyable reading experience that makes students aware of the benefits of extensive reading in English and further motivates them to read for pleasure. An additional aim of this course is to promote self-directed learning habits that lead to students actively taking responsibility for their own second-language acquisition.				
授 業 の 概 要	To achieve the stated aims of this course, reading circles and group work activities are used to foster speaking, summarising and basic discussion skills. Students engage in active learning by interacting with a crime story that requires them to look for clues and analyse motives. By taking on the various roles of the speaking circles and collaborating with their classmates, students take responsibility for their own and their group's progress. Additional extensive reading tasks conducted outside the classroom and evaluated online further facilitate vocabulary development and reading fluency. Students are able to choose their own reading materials and plan their own progress towards a predetermined goal.				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Class placement test 2 Orientation and introduction 3 Introduction to the textbook & reading circles 4 Chapter 1: The Scene of the Crime 5 Chapter 2: Three Interviews 6 Chapter 2: Three Interviews (cont'd) 7 Chapter 3: The Hospital 8 Chapter 3: The Hospital (cont'd) 9 Chapter 4: The Suspect 10 Chapter 4: The Suspect (cont'd) 11 Chapter 5: Family Secrets 12 Chapter 5: Family Secrets (cont'd) 13 Chapter 6: The Arrest 14 Chapter 6: The Arrest (cont'd) 15 Extensive Reading Wrap-up 				
授 業 の 留 意 点	Much of the classroom work will be done in small groups. All students are expected to co-operate and contribute to these activities through active classroom participation. Students are also required to maintain a "detective's notebook" in which they record important story and character details and key vocabulary items. Additional activities and tasks will be conducted online through the use of an e-learning system accessible from both school and home via the Internet. Students are assumed to have basic computer and typing skills and will be expected to complete some online activities outside of class time.				
学 生 に 対 す る 評 価	Class participation/attendance (15pts), Six [6] chapter comprehension tests (60pts), and online reading activities (25pts).				
教 科 書 (購 入 必 須)	Whodunit (Adam Gray & Marcos Benevides) ABAX Ltd (ISBN: 9781896942339)				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	英語 I				
担 当 教 員 名	小古間 甚一				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	英語を苦手とする要因として基礎的な文法知識が欠けていることがある。英語 I では、英語の基礎的な文法を学び、リーディング、リスニング、ライティングのための基礎作りと応用力の養成を行う。英語 I で扱うのは、主語と動詞、不定詞、分詞、動名詞、関係詞、比較、仮定法。				
授 業 の 概 要	基礎的な英文法を学ぶために、全文書き換え問題、空所補充問題、誤文訂正問題のプリントを毎時間配布し、説明と個別指導を行う。中間テストで弱点チェックをする。英文読解については英文和訳を行い、英語力と日本語力を同時に養う。また、英語読解力を高めるために、Eラーニングを利用した読解トレーニングを行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 クラス分けテスト 2 主語と動詞 疑問文・否定文 3 主語と動詞（進行形、能動態と受動態） 4 分詞 5 動名詞 6 不定詞 7 関係代名詞 8 関係副詞 9 比較 10 仮定法 1 11 仮定法 2 12 文法総合演習（TOEIC、英検など） 13 英文読解演習 14 総合問題演習 1 15 総合問題演習 2 				
授 業 の 留 意 点	授業中の居眠り厳禁。遅刻は 5 分以内まで。遅刻 3 回につき 1 回分の欠席とする。教材はプリントで配布する。学生の理解度によってスケジュールを一部変更することがある。				
学 生 対 対 する 評 価	中間まとめ（25 点）および前期試験（45 点）。Eラーニング読解トレーニングの結果（30 点）。読解トレーニングの最低基準を 30000 ワードとする。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	プリントを配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	高校時代に使った文法の教科書・参考書、辞書（中学生用が望ましい）を利用してほしい。				

科 目 名	英語 I				
担 当 教 員 名	野月 朱美				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	英語の総合力をあげる。				
授 業 の 概 要	文法を踏まえた英作文、および瞬間英作文を練習し、英語の総合力をあげる。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 クラス分けテスト 2 クラスガイダンスとプリテスト 3 be 動詞、一般動詞、進行形 4 未来形、助動詞 5 名詞・冠詞、代名詞 6 前置詞、形容詞・副詞 7 比較、命令文・感嘆文 8 接続詞 I、不定詞 I・動名詞 I 9 受動態、接続詞 II 10 現在完了形、5つの基本文型 11 各種疑問文、不定詞 II Show and Tell のテーマを決定し、原稿を作り始める 12 It の特別用法、分詞・動名詞 Show and Tell の原稿を最後まで作成し、教師に提出する 13 関係代名詞、 Show and Tell の添削原稿を受け取り、それを推敲する 14 ポストテスト Show and Tell の発表 15 Show and Tell 発表 				
授 業 の 留 意 点	辞書持参のこと 毎回復習し、小テストに備えること Show and Tell の原稿作りにはパソコン等の翻訳ソフトは使わないこと				
学 生 に 対 す る 評 価	小テスト (60 点)、E-learning (15 点)、Show and Tell (10 点)、授業参加度(15 点)				
教 科 書 (購 入 必 須)	First Primer (南雲堂)				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	英語 I				
担 当 教 員 名	野村 幸輝				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>「英語で読む 日本社会と命」 授業の到達目標は、現代日本における保健・福祉・社会の現状とその課題について知ること、同時に英語の「読む」「書く」の技能の習得である。受講者は上記分野についての知識や教養を深めるとともに、高校までの単語力と読解力をさらに引き上げることができるようになる。 授業のテーマは、日本と命をキーワードにした英文の精読である。「発音クリニック」として英語の正しい音の指導にも力を入れる。学生の積極的な授業参加を期待する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>震災、虐待、心の病、自殺、孤独死、ジェンダー格差、現代病、人間力についての英語講読。各学生が割り当てられた範囲を授業内で音読し、内容を発表する。パソコン、プロジェクター、動画、静止画を使用した講義と演習。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 震 災 津波のあと 子どもたちのこれから 3 虐 待 不況の中の虐待・ネグレクト・子どもたち 4 人間力 人生の分岐点 大泉洋 5 記 憶 PTSD という名の心の傷 6 心 理 パニック障害をサポートしよう 7 人間力 人の心をただひたすらに 吉田美和 8 まとめ 9 自 殺 日本はなぜ自殺大国なのか 10 孤 立 孤独死に対して僕らができること 11 人間力 すべての命を救いたい 上山博康 12 育 児 ジェンダー格差国における仕事と育児 13 疾 病 乳がんに対する日本人の意識 14 人間力 挑戦者の資格 竹内智香 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>すべての講義に出席すること。担当者（野村）も活発になるようなクラス作りに努める。各自の担当の宿題をやることはもちろん、担当ではない部分についても事前に読んでくること。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>試験（60点）、宿題（10点）、参加態度（30点）</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>『英語で読む 日本社会と命』 著・野村幸輝 2018年（初回講義の際に購入できる）</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>『ポケット版 カルテ用語辞典』 著・大井静雄 小学館（購入の必要はありません） 『社会福祉英和・和英用語辞典』 著・仲村優一 誠信書房（購入の必要はありません）</p>				

科 目 名	英語 I				
担 当 教 員 名	藤岡 順子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>まとまった英語を読みその内容を理解します。そうすることにより少しずつ語彙を増やし、それらの語彙を使い、英語の文章を書けるようにします。英語を理解するとともに、英語が使われている国の文化的な背景も学びます。また、英語を聞き取る力を養います。受験英語からは放れますが、今まで学んできた基本的な文法の定着を図ります。</p>				
授 業 の 概 要	<p>テキストの他に英字新聞上の人生相談や簡単な記事などを使いながら進めます。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Class placement test 2 Introduction 3 Text - 動詞 (1) 4 Text - 動詞 (2) 5 英字新聞から (人生相談 1) 6 Text - 群動詞 (1) 7 Text - 群動詞 (2) 8 English Newspaper Article 9 Text - 文型 (1) 10 Text - 文型 (2) 11 英字新聞から (人生相談 2) 12 Text - 時制 (1) 13 Text - 時制 (2) 14 English Newspaper Article 15 Text - まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回辞書を持ってくること。 ・ テキストを予習してくること。 				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>ほぼ隔週の小テストの合計を 100% (100 点) で計算し、評価としますが課題の提出も考慮に入れ総合的に評価します。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>最初の授業時に指定します。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科目名	英語 I				
担当教員名	前田 千早				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	The object of this course is to use the English that has been learned in high school. The course is designed to encourage students to enjoy and discover a deeper interest in the language.				
授業の概要	The classes will focus on the readings from the text.				
授業の計画	1 Orientation 2 Introduction The Inverted Eagle Story 1 3 Chapter 1 Scene of the crime 4 Chapter 1 Quiz 5 Chapter 2 Three Interviews 6 Chapter 2 Quiz 7 Chapter 3The Hospital 8 Chapter 3 Quiz 9 Chapter 4The Suspect 10 Chapter 4 Quiz 11 Chapter 5Family Secrets 12 Chapter 5 Quiz 13 Chapter 6The Arrest 14 Chapter 6 Quiz 15 Summary				
授業の留意点	Students should come prepared to study ENGLISH at each lesson.				
学生に対する評価	Quizzes×6 (60点) Readers (20点) Class participation (20点)				
教科書 (購入必須)	Textbook:Whodunit Dictionary				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	英語 I				
担 当 教 員 名	野村 太				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	今まで中highで習ってきたことを復習しながらより高度な英文を読んで理解し、さらに自分の言いたいことを英作出来る力を養うことを目標とします。				
授 業 の 概 要	最新的话题をネット上の英語サイトから選び、プリントにして渡します。それを読みながら読解力を鍛え、さらには意見を英語で表現する練習を行います。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 クラス分けテスト 2 Be 動詞・一般動詞の使い方 3 疑問詞 4 助動詞 5 命令形・it の用法 6 進行形 過去形 未来形 7 比較級・最上級 8 接続詞 9 動名詞・不定詞 10 受動態 11 There is の文 12 関係詞 13 仮定法過去 14 仮定法過去完了 15 総合演習 				
授 業 の 留 意 点	授業中の居眠り、無断のスマホ操作は授業放棄とみなし、欠席に準ずる処置をとります。				
学 生 に 対 す る 評 価	授業態度 50 点、期末テスト 50 点合計 100 点で評価します。無断欠席は 8 点、授業放棄行為は 5 点減点します。Moodle で規定語数に達しなければ不足語数 100 語につき 1 点減点、その反対に多く読めば加点します。				
教 科 書 (購 入 必 須)	プリントを配布します。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	英語 II				
担 当 教 員 名	Martin Meadows				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	The goal of this course is to develop students' writing skills through a combination of both intensive and extensive writing activities. Intensive writing activities aim to develop correct writing practices and conventions through a focus on grammar, sentence and paragraph structures, logical coherence, and pattern awareness gained through reading model compositions. Extensive writing activities aim to promote fluency and creativeness through writing freely and frequently for pleasure on topics of personal interest.				
授 業 の 概 要	Students will complete a variety of textbook and online activities. Structured activities using textbook lessons and individual practice are expected to be completed as homework as well as in class. Over the semester, students will create a portfolio of original paragraph writings and short compositions after reading model examples and extracting patterns useful for self-expression. At the same time, regular and short freestyle writings will be undertaken to promote fluency and creativity. Students will be required to keep a weekly journal in the form of an online blog and to read and respond to their classmates' blogs.				
授 業 の 計 画	1 Orientation 2 Model paragraphs - Rooms 3 Model paragraphs - Rooms 4 Model paragraphs - Schools/Universities 5 Model paragraphs - Schools/Universities 6 Model paragraphs - Photos 7 Model paragraphs - Photos 8 Model paragraphs - People 9 Model paragraphs - People 10 Model paragraphs - Email Inquiries 11 Model paragraphs - Email Inquiries 12 Model paragraphs - Movie Reviews 13 Model paragraphs - Movie reviews 14 Model compositions 15 Composition & Wrap-up				
授 業 の 留 意 点	There will be a lot of writing in this course and students are expected to submit regular and original assignments. "Copy-paste" and other forms of plagiarism will not be accepted. Mistakes are welcome so long as improvement is the goal and effort is apparent.				
学 生 に 対 す る 評 価	Weekly online blog/journal & collaborative writings (30pts), writing portfolio (50pts), and supplemental extensive reading activities (10pts).				
教 科 書 (購 入 必 須)	Read to Write Plus (B. Bricklin Jeff & Douglas Moore) BTB Press (ISBN 978-4-905088-34-9) ¥1700 plus tax				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	小古間 甚一				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	英語Ⅱでは、1年生で学んだ英語の基礎文法力を強化し、応用できる力を身に付ける。語彙力を強化する。英語を日本語に翻訳をすることで英語と日本語の力を同時に高める。英語を学ぶことの意義と愉しさを知る。				
授 業 の 概 要	まず、英語Ⅰで学んだ基礎的な文法を復習する。TOEICや英検（準2級、2級レベル）の文法問題や読解問題を解きながら、基礎的な英語力を磨く。英語Ⅱの最後に和文英訳（翻訳）をする。彙力強化のための試験を行う。Eラーニングを利用した英語力強化トレーニングを行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 主語と動詞（受動態、能動態） 2 分詞 3 不定詞 4 動名詞 5 関係詞 1 6 関係詞 2 7 仮定法過去 8 仮定法過去完了 9 パラグラフ・リーディング 10 総合問題演習（文法） 11 総合問題演習（読解） 12 中間まとめ 13 英文和訳（翻訳演習） 1 14 英文和訳（翻訳演習） 15 総合問題（文法・リーディング・和訳） 				
授 業 の 留 意 点	授業中の居眠り厳禁。遅刻・欠席はしないこと。遅刻 3 回（15 分程度）につき 1 回分の欠席とする。				
学 生 対 する 評 価	中間まとめ（35 点）および後期試験（35 点）の点数、Eラーニングによる読解トレーニング結果（30 点）。Eラーニングを利用した英語強化トレーニングで 30000 ワードをクリアすること。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	プリントを配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	高校時代に使った教科書・参考書、辞書を持参すること。				

科 目 名	英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	野月 朱美				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	英語の総合力をあげる。				
授 業 の 概 要	文法を踏まえた英作文、および瞬間英作文を練習し、英語の総合力をあげる。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 クラスガイダンス、英語による自己紹介、プリテスト 2 Chapter 1 Why do people love sweets? 3 Chapter 2 Do you have a “dessert stomach”? 4 Chapter 3 Why is Japanese cuisine so popular? 5 Chapter 4 Did you enjoy your school meals? 6 Chapter 5 Why do children dislike vegetables so much? 7 Chapter 6 How do you wash your dishes and vegetables? 8 Chapter 7 What a long way frozen food has come? 9 Chapter 8 Where do you get your food? 10 Chapter 9 Do you know the power of fermentation? 11 Chapter 10 Do you take your medicine correctly? Show and Tell の準備 12 Chapter 11 Are you dieting the right way? Show and Tell の準備 13 Chapter 12 Is collagen really effective? Show and Tell の最終確認 14 Show and Tell 発表 ポストテスト 15 Show and Tell 発表 				
授 業 の 留 意 点	辞書持参のこと 毎回復習し、小テストに備えること Show and Tell の原稿作りにはパソコン等の翻訳ソフトは使わないこと				
学 生 に 対 す る 評 価	小テスト (60点)、E-learning (15点)、Show and Tell (10点)、授業参加度(15点)				
教 科 書 (購入必須)	Living Well, Eating Well (朝日出版)				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	野村 幸輝				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>「英語で読む 日本社会と命」 授業の到達目標は、現代日本における保健・福祉・社会の現状とその課題について知ること、同時に英語の「読む」「書く」の技能の習得である。受講者は上記分野についての知識や教養を深めるとともに、高校までの単語力と読解力をさらに引き上げることができるようになる。 授業のテーマは、日本と命をキーワードにした英文の精読である。「発音クリニック」として英語の正しい音の指導にも力を入れる。学生の積極的な授業参加を期待する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>暴力、喫煙、福祉、介助、癒し、食、寿命、人間力についての英語講読。各学生が割り当てられた範囲を授業内で音読し、内容を発表する。パソコン、プロジェクター、動画、静止画を使用した講義と演習。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 暴 力 日本文化におけるドメスティック・バイオレンス 3 喫 煙 日本は喫煙天国でいいのか 4 人間力 心は弱者じゃない 京谷和幸 5 福 祉 QOLとHRQOLの違い 6 介 助 ロボットとこれからの介助 7 人間力 情熱が生み出すもの 萩田つかさ 8 まとめ 9 音 楽 音楽療法の効用と歴史 10 笑 い 病棟の笑いセラピスト 11 人間力 旭山の少年が成し遂げたこと 安田佳正 12 食 糧 食糧自給率と日本の未来 13 寿 命 日本人の摂取カロリーと寿命 14 人間力 出会い、そして人間力 山本リエ 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>すべての講義に出席すること。担当者（野村）も活発になるようなクラス作りに努める。各自の担当の宿題をやることはもちろん、担当ではない部分についても事前に読んでくること。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>試験（60点）、宿題（10点）、参加態度（30点）</p>				
教 科 書 （購入必須）	<p>『英語で読む 日本社会と命』 著・野村幸輝 2018年（初回講義の際に購入できる）</p>				
参 考 書 （購入任意）	<p>『ポケット版 カルテ用語辞典』 著・大井静雄 小学館（購入の必要はありません） 『社会福祉英和・和英用語辞典』 著・仲村優一 誠信書房（購入の必要はありません）</p>				

科 目 名	英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	藤岡 順子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	テキスト以外に英字新聞の簡単な記事を読み、その英語を理解するとともに文化的な背景も学びます。引き続き文法の確認、定着を図るとともに 4 スキル (writing, reading, listening, speaking) の向上を目指します。				
授 業 の 概 要	テキストの他に英字新聞上の人生相談や簡単な記事などを使いながら進めます。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 My summer break 3 Text 完了形 4 English Article 1 5 Text 助動詞 6 Text 不定詞 7 English Article 2 8 Text 分詞 9 Text 動名詞 10 English Article 3 11 Text 代名詞 12 Text 形容詞 13 English Article 4 14 Text 形容詞 15 Review				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回辞書を持ってくること。 ・テキストを予習してくること。 				
学 生 に 対 す る 評 価	ほぼ隔週の小テストの合計を 100% (100 点) とし評価しますが、課題の提出なども加味し総合的に評価します。				
教 科 書 (購 入 必 須)	英語Ⅰのテキストを引き続き使います。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	前田 千早				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	The objectives of the second part of this course are the same as the goals for English I. After the completion of both courses, the students are hoped to have gained more confidence in English and have enjoyed using the English language.				
授 業 の 概 要	The classes will focus on the second half of the text.				
授 業 の 計 画	1 Death on U Street 2 Crime Talk 3 Chapter1 The Victim 4 Chapter1 Quiz 5 Chapter2 Black mail 6 Chapter2 Quiz 7 Chapter3 The Video tape 8 Chapter3 Quiz 9 Chapter4 The Letter 10 Chapter4 Quiz 11 Chapter5 The Meeting 12 Chapter5 Quiz 13 Chapter6 Guilty Guilty Guilty 14 Chapter6 Quiz 15 Summary				
授 業 の 留 意 点	Students should come prepared to study ENGLISH at each lesson.				
学 生 に 対 す る 価 値	Quizzes×6 (60点) Readers (20点) Class participation (20点)				
教 科 書 (購入必須)	Textbook:Whodunit dictionary				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	野村 太				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	日本の文化、スポーツ、政治、経済、娯楽、ありとあらゆる分野を紹介する英文を読んで理解し、その感想を英作できることを目標にします。余力があればリスニング、スピーキングにも挑戦します。				
授 業 の 概 要	最新的话题をネット上の英語サイトから選び、プリントにして渡します。それを読みながら読解力を鍛え、さらには意見を英語で表現する練習を行います。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 日本の食文化 3 生活 4 伝統 5 教育 6 ビジネス、経済 7 住宅 8 気候 9 アニメ・マンガ 10 映画 11 スポーツ 12 治安 13 交通網 14 休日の過ごし方 15 健康 				
授 業 の 留 意 点	授業中の居眠り、無断のスマホ操作は授業放棄とみなし、欠席に準ずる処置をとります。				
学 生 対 する 評 価	授業態度 50 点、期末テスト 50 点合計 100 点で評価します。無断欠席は 8 点、授業放棄行為は 5 点減点します。Moodle で規定語数に達しなければ不足語数 100 語につき 1 点減点、その反対に多く読めば加点します。				
教 科 書 (購入必須)	プリントを配布します。				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	英語Ⅲ				
担当教員名	Martin Meadow・小古間 甚一・古牧 徳生				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
学習到達目標	In this course, students will read the book TUESDAYS WITH MORRIE, which documents a series of conversations in the last days in the life of Morrie Schwartz, a university sociology professor. Each Tuesday conversation is shown as a lesson in living from a dying man. Author Mitch Albom, a former student of Morrie's, describes how Morrie's lessons helped him to change his own life for the better. This book will be of interest for Health & Welfare students who, in the future, will have to interact with people nearing the end of their lives. Morrie's lessons teach us the joys of a life lived day by day to the end.				
授業の概要	Students will read the book in depth and be responsible for presenting a short summary of selected chapters to their classmates. Students are expected to formulate and express their opinions/reactions to each of Morrie's "lessons". The reading material requires students to apply advanced reading and listening skills, as well as analytical skills. Students will be called upon to form and express their own opinions through discussion, oral presentation, and writing assignments.				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction & orientation 2 The Student, The Audiovisual 3 The Orientation, The Classroom, Taking Attendance 4 The First Tuesday, The Second Tuesday 5 The Third Tuesday, The Audiovisual (Pt.2), The Professor 6 The Fourth Tuesday, The Fifth Tuesday 7 The Sixth Tuesday, The Professor (Pt. 2), The Seventh Tuesday 8 The Eighth Tuesday, The Ninth Tuesday 9 The Tenth Tuesday, The Eleventh Tuesday 10 The Audiovisual (pt.3), The Twelfth Tuesday, The Thirteenth Tuesday 11 The Fourteenth Tuesday, Graduation, Conclusion 12 Movie - Tuesdays with Morrie (1) 13 Movie - Tuesdays with Morrie (2) 14 Afterword. Class discussion. 15 Reviews 				
授業の留意点	Students are expected to complete the assigned weekly readings independently and in a timely manner so that they can contribute to classroom discussions. Students should participate actively in activities by speaking out, voicing their opinions, and seeking help when needed.				
学生に対する評価	Class participation (40pts), Chapter presentations/assignments (30pts), Final book report (30pts)				
教科書 (購入必須)	TUESDAYS WITH MORRIE (Doubleday, 1997) & a variety of supplementary materials.				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	英語IV				
担 当 教 員 名	Martin Meadows・小古間 甚一				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	This course focuses on consolidating and extending the range of skills developed in previous courses and prepares students for using English in academic contexts relevant to their own selected majors. Stress is placed on the development of academic writing skills such as summarizing, paraphrasing, and coherency.				
授 業 の 概 要	Students will prepare written descriptions of courses they have taken for inclusion in a University pamphlet. Course reading materials will be drawn from authentic academic sources, and students will be required to read independently outside of classroom time. By course end, students will prepare an English abstract of an academic paper they have written for one of their specialized courses.				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction & orientation. 2 Library research: finding what you want 3 Understanding abstracts: getting the information you need (1) 4 Understanding abstracts: getting the information you need (2) 5 Reading academic writing: building a specialized lexicon 6 Reading academic writing: skimming articles for essential information. 7 Listening: TED Talks (1) 8 Listening: TED Talks (2) 9 Listening: TED Talks (3) 10 Reading academic writing: summarizing the main points. 11 Paraphrasing: re-writing in your own words using synonyms and restating. 12 Paraphrasing: Avoiding plagiarism and direct translation 13 Editing your writing 14 Presentations & discussion 15 Presentations & discussion 				
授 業 の 留 意 点	Students are encouraged to think critically, contribute to class activities, and take responsibility for their own learning by reading assigned materials and completing assignments on their own time.				
学 生 に 対 す る 評 価	Class participation (40pts), Homework & assignments (60pts)				
教 科 書 (購 入 必 須)	Effective Academic Writing (Oxford Univ. Press) A variety of authentic materials such as newspaper articles & academic papers, etc will be used.				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	Martin Meadows				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	This course focuses primarily on developing communication skills through interaction with English-language learners abroad in an online, virtual exchange program. Students will learn about everyday activities and concerns of students from other cultures and, by sharing aspects of their own daily lives with foreign students, have opportunity to reflect on and re-evaluate their own cultural values and assumptions.				
授業の概要	Using a Moodle-based virtual exchange platform, students will develop writing and speaking skills by posting textual and audio accounts of their daily lives and concerns in shared online forums. At the same time, listening and reading skills will be developed as students read and listen to posts made by their exchange counterparts. Students will not only gain an understanding of and appreciation for the daily concerns of English-language-learning students from a different culture, they will develop a greater appreciation of their own culture. In addition to the virtual exchange, students will rehearse and construct original, "model" speeches and receive feedback from their classmates. Classroom activities will also provide opportunities for spontaneous and unrehearsed speech acts. By the end of this course, all students will be able to make and post a short recorded speech, and provide verbal feedback to their classmates' speeches.				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Class placement test (all students) 2 Adding resources to Moodle 3 Introduction to Cross-Cultural Communication 4 Virtual Exchange (VE) - Self-introductions 5 Virtual Exchange (VE) - Self-introductions 6 Virtual Exchange (VE) - My Place 7 Virtual Exchange (VE) - My Place 8 Virtual Exchange (VE) - Events in our Lives 9 Virtual Exchange (VE) - Events in our Lives 10 Virtual Exchange (VE) - My Future Plans 11 Virtual Exchange (VE) - My Future Plans 12 University Life - Interviewing a Partner 13 University Life - Interviewing a Partner 14 Part-time Jobs 15 Final Speaking Exam 				
授業の留意点	Students will be expected to try to use English for the majority of communication conducted in the classroom. With a smaller class, participation in class activities is particularly important and students are strongly encouraged to both speak out and voice their opinions when able, and to ask for information and assistance when necessary. Students should take responsibility for their own learning and participate actively in pair and group activities. Students are also expected to learn how to use some computer-based applications required for the online exchange.				
学生に対する評価	Class participation - forum posts and replies (40 pts), Term-end oral test (40 pts), Extensive reading (20 pts)				
教科書 (購入必須)	Online materials in the Moodle-based course.				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	小古間 甚一				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	英語 I で学習した基礎的な文法知識を使って英語を発信する力をつける。英語によるコミュニケーション能力を高める。例文を参考にしながら英文が作成できる力を身に付ける。				
授業の概要	中学生レベルの基礎的な文法知識を使って短文を作る練習を徹底的に行う。毎回英文を書き提出してもらう。最終的に 200 ワード程度を英文を書いてもらい、それをもとにして英語による質疑応答を行う。英語の基礎的な力を高めるために E ラーニングによる英語読解力トレーニングを行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業ガイダンス 英語 I の復習 2 主語と動詞 3 現在形、過去形、完了形 4 受動態 5 分詞の用法 6 不定詞の用法 7 動名詞の用法 8 比較の用法 9 関係詞を使った英文 1 10 関係詞を使った英文 2 11 仮定法を使った英文 1 12 仮定法を使った英文 2 13 自由テーマ作成 14 英語による質疑応答 (1) 15 英語による質疑応答 (2) 				
授業の留意点	遅刻・欠席をしないこと。遅刻 (5 分程度) 3 回につき 1 回の欠席とする。授業で説明したことをきちんとメモすること。授業で学んだ内容を忘れないようにしっかり復習すること。				
学生に対する評価	基礎文法確認テスト (20 点)、課題提出 (20 点)、英語質疑応答テスト (30 点)、E ラーニング読解トレーニング結果 (30 点)				
教科書 (購入必須)	プリントを配布する。				
参考書 (購入任意)	辞書 (中学生用が望ましい)、参考書、英語 I で配布した資料等を持参すること。				

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担 当 教 員 名	野月 朱美				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	教 職 : 必 修
学 習 到 達 目 標	英語をコミュニケーションの道具として活用する。				
授 業 の 概 要	英語で自分の言いたいことを伝える練習をする。また、英語の質問に、間を開けず適切に反応できるように練習する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 クラスガイダンス・リスニング (パーティの予定) 2 リスニング (店での会話) 3 リスニング (野球の観戦に誘う) 4 リスニング (面会の予約を取った相手に会いに行く) 5 リスニング (郵便局にて) 6 リスニング (映画のチケットを買う) 7 リスニング (クラブ活動を休んだ理由) 8 身の回りのものを英語で説明し伝える 9 ジョークを英語で伝える 10 西洋の昔話を英語で伝える 11 寸劇のテーマを考え、原稿を作り始める 12 寸劇の原稿を最後まで作り、教師に提出する 13 添削原稿を受け取り、内容を確認、さらに推敲する 14 原稿を完成させる 15 寸劇発表 				
授 業 の 留 意 点	辞書持参のこと 毎回復習し、小テストに備えること 寸劇の原稿作りにはパソコン等の翻訳ソフトは使わないこと				
学 生 に 対 す る 評 価	小テスト (60 点)、E-learning (15 点)、寸劇 (10 点)、授業参加度(15 点)				
教 科 書 (購 入 必 須)	なし				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	野村 幸輝				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	<p>「英語で話す マイワールド 240」</p> <p>授業の到達目標は、国内あるいは国外、どのような状況においても英語の「聞く」「話す」を駆使できる、全シチュエーション型・英会話人になるための技術を学ぶ。受講者は中学生～高校1年生レベルの単語と文法のみを使い、その目標を達成させる。</p> <p>授業のテーマは、自己紹介における英会話である。「発音クリニック」として英語の正しい音の指導にも力を入れる。英語に自信のない学生には特にこのコースをお勧めする。</p>				
授業の概要	<p>日本国内で英語話者と会話をするための英語での自己紹介（自分、家族、友だち、故郷）。各学生が割り当てられた範囲を授業内で発表する。パソコン、プロジェクター、動画、静止画を使用した講義と演習。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ミー！ 「あいさつ」 3 ミー！ 「プロフィール」 4 ミー！ 「趣味」 5 ミー！ 「好きなもの、嫌いなもの」 6 マイ・ファミリー！ 「親」 7 マイ・ファミリー！ 「兄弟、姉妹」 8 まとめ 9 マイ・ファミリー！ 「誰がナンバーワン？」 10 マイ・フレンズ！ 「プロフィール」 11 マイ・フレンズ！ 「高校時代」 12 マイ・フレンズ！ 「親友」 13 マイ・ホームタウン！ 「こんな場所」 14 マイ・ホームタウン！ 「日本について」 15 まとめ 				
授業の留意点	<p>すべての講義に出席すること。担当者（野村）も活発になるようなクラス作りに努める。各自の担当の宿題をやることはもちろん、担当ではない部分についても事前に読んでくること。</p>				
学生に対する評価	<p>試験（60点）、宿題（10点）、参加態度（30点）</p>				
教科書（購入必須）	<p>『英語で話す マイワールド 240』 著・野村幸輝 2018年（初回講義の際に購入できる）</p>				
参考書（購入任意）	<p>『もっと遠くへ アメリカ 1986～1990』 著・野村幸輝（購入の必要はありません）</p>				

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	藤岡 順子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	<p>中学、高校と学んだ英語を実際に使えるものにしていきます。いかに自分のことや日常生活を英語で言えるかということに重点を置き授業を進めます。英語圏との文化の違い、考え方の違い(或いは同じ)にも注意を向け、日本の文化を英語で言えるようにします。日本語とは違う英語のリズムを身につけるために Listening にも力をいれます。</p>				
授業の概要	<p>会話を主にしたテキストの他にスヌーピーの英語なども題材にしながら授業を進めます。また英語のポップミュージックもとりあげます。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Class placement test 2 Introduction I am ～ 3 Getting know the classmates 4 Talking about hometown (1) 5 Talking about hometown (2) 6 Japanese culture ? Enjoy Autumn Leaves 7 What do you like? 8 Talking about daily life (1) 9 Talking about daily life (2) 10 How was your weekend? (1) 11 How was your weekend? (2) 12 Japanese culture ? New Year's Day 13 Talking about the vacation (1) 14 Talking about the vacation (2) 15 POP music 				
授業の留意点	<p>毎回辞書を持ってくること。 授業へ積極的に参加し、少しでも多く英語を話すようにすること。</p>				
学生に対する評価	<p>ほぼ隔週に行われる小テストの合計を 100% (100 点)とし点数で評価をするが、その他提出物なども加味し総合的に評価します。</p>				
教科書 (購入必須)	<p>クラス分けテストの後、最初の授業時に指定します。</p>				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	前田 千早				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開講形態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	This course is designed to focus on the listening and speaking skills of the students in hopes to improve their abilities to communicate in English.				
授業の概要	The classes will focus on a different topic every week. The students are encouraged to openly share their own experiences and interests with their classmates. There will be a variety of speaking, writing and listening assignments.				
授業の計画	1 Orientation/test 2 introduction 3 Health Habits 4 Haiku 5 Cross words 6 Life Boat 7 Project outline 8 Proper Sentences 9 Describing people 10 How much? 11 Guess who 12 Scrabble 13 Term project 14 Term project 15 Term project				
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English at each lesson. Participation in class will be an important part of this course.				
学生に対する評価	Class participation (60点) Readers (20点) Term Project (20点)				
教科書 (購入必須)	Materials will be handed out in class Dictionary				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	野村 太				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	北海道を訪れる外国人が急増する傾向は今後も続くといわれています。皆さんもこれから先、思いがけない場面で英語を話さねばならない機会が来るでしょう。自信をもって会話できることを目標に掲げ、訓練します。				
授業の概要	音読、シャドーイングなどの方法を用いて基礎会話力をつけ、習熟度を見ながら応用編に入ります。				
授業の計画	1 クラス分けテスト 2 Name & Age 3 Hometown & Education 4 Personality & Health 5 My dream 6 My family 7 Pets 8 Clothes 9 Cooking & Restaurants 10 Smartphones 11 Sleeping and Shopping 12 Weekends & Daily schedule 13 My favorite seasons 14 English 15 Music				
授業の留意点	授業中の居眠り、無断のスマホ操作は授業放棄とみなし、欠席に準ずる処置をとります。				
学生に対する評価	授業態度 50 点、期末テスト 50 点合計 100 点で評価します。無断欠席は 8 点、授業放棄行為は 5 点減点します。Moodle で規定語数に達しなければ不足語数 100 語につき 1 点減点、その反対に多く読めば加点します。				
教科書 (購入必須)	プリントを配付します。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	Martin Meadows				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	This course builds on the virtual exchange conducted in Communication 1 and extends the development of communication skills and strategies. Again, students will interact with English-language learners abroad in an online, virtual exchange program to further learn about the values and concerns of students from other cultures. Students from all participating countries will, if possible, engage in a collaborative project that requires them to both explore their own cultural perspectives and show an understanding for opinions and values of other cultures as well.				
授 業 の 概 要	Using a Moodle-based virtual exchange platform, students will develop writing and speaking skills by posting textual and audio accounts of their values and opinions in shared online forums. At the same time, listening and reading skills will be developed as students read and listen to posts made by their exchange counterparts. Students will not only gain an understanding of and appreciation for the values of English-language-learning students from a different culture, they will develop a greater appreciation of their own cultural values. A collaborative project will be undertaken in small groups of both Japanese and foreign students that requires students to prepare simple research inquiries about aspects of their own cultures and investigate the inquiries of their exchange counterparts. A final group presentation will be made of what has been learned.				
授 業 の 計 画	<ul style="list-style-type: none"> * Orientation and Introduction * Cool Japan - Cool Nayoro 				
授 業 の 留 意 点	Students will be expected to try to use English for the majority of communication conducted in the classroom. With a smaller class, participation in class activities is particularly important and students are strongly encouraged to both speak out and voice their opinions when able, and to ask for information and assistance when necessary. Students should take responsibility for their own learning, for engaging with their exchange counterparts, and participating actively in group activities.				
学 生 に 対 す る 価 値	Class participation (30pts), Group-based research inquiry/presentation (30pts) Term-end presentation (40pts)				
教 科 書 (購 入 必 須)	Various printed and online materials.				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	小古間 甚一				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	基礎的な文法知識を応用して英文を作り、英語で発信する力を身に付ける。仮定法や過去完了形など難しい文法知識を使って英語で伝える力をさらに身につける。				
授業の概要	テーマに沿って英文を書く。まとめとして250～300語程度の英文を2つ書き、それを使って英語による質疑応答をする。基礎力養成のためにEラーニングによる読解トレーニングを行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 英語の基礎 復習 2 1週間の出来事を書く1 3 1週間の出来事を書く2 4 1週間の出来事を書く3 5 自己アピール1 6 自己アピール2 7 友人に近況を報告する1 8 友人に近況を報告する2 9 自由課題1 構想 10 自由課題2 英文下書き 11 自由課題3 ワープロ原稿作成 12 自由課題4 原稿修正 13 自由課題5 原稿提出 14 自由課題6 発表1 15 自由課題 発表2 				
授業の留意点	遅刻・欠席・居眠り厳禁。遅刻（5分程度まで）3回で欠席1回分とする。辞書（中学生用が望ましい）を必ず持参すること。予習・復習をしっかり行い、基本的な英文法の知識を理解するよう努めること。				
学生に対する評価	英作文テスト（30点）、課題提出（20点）面接試験（20点）、Eラーニング読解トレーニング結果（30点）Eラーニングによる読解トレーニング30000ワード以上をクリアすること。				
教科書（購入必須）	プリントを配布する。				
参考書（購入任意）	高校時代に使った参考書、教科書、辞書（中学生用が望ましい）を持参すること。英語Ⅰ・Ⅱで配布したプリントを持参すること。				

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	野月 朱美				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	英語をコミュニケーションの道具として活用する。				
授業の概要	英語で自分の言いたいことを伝える練習をする。また、英語の質問に、適切に間を空けず反応できるよう練習する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・リスニング（電話での会話） 2 リスニング（道案内） 3 リスニング（ホテルにて） 4 リスニング（空港での会話） 5 リスニング（パソコンについての会話） 6 リスニング（映画に誘う） 7 リスニング（アルバイトの問い合わせ） 8 身の回りのものを英語で説明し伝える 9 ジョークを英語で伝える 10 日本の昔話を英語で伝える 11 寸劇のテーマを考え、原稿を作り始める 12 寸劇の原稿を最後まで作り、教師に提出する 13 添削原稿を受け取り、内容を確認、さらに推敲する 14 原稿を完成させる 15 寸劇発表 				
授業の留意点	辞書持参のこと 毎回復習し、小テストに備えること Show and Tell の原稿作りにはパソコン等の翻訳ソフトは使わないこと				
学生に対する評価	小テスト（60点）、E-learning（15点）、寸劇（10点）、授業参加度（15点）				
教科書（購入必須）	なし				
参考書（購入任意）					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	野村 幸輝				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	<p>「英語で話す マイワールド 240」</p> <p>授業の到達目標は、国内あるいは国外、どのような状況においても英語の「聞く」「話す」を駆使できる、全シチュエーション型・英会話人になるための技術を学ぶ。受講者は中学生～高校1年生レベルの単語と文法のみを使い、その目標を達成させる。</p> <p>授業のテーマは、海外旅行における英会話である。「発音クリニック」として英語の正しい音の指導にも力を入れる。英語に自信のない学生には特にこのコースをお勧めする。</p>				
授業の概要	<p>海外旅行をする際に最低限必要となる会話の練習。映像を見ながら観光（レストラン、ショッピング、コンサート、スポーツ観戦など）にも出かける。各学生が割り当てられた範囲を授業内で発表する。パソコン、プロジェクター、動画、静止画を使用した講義と演習。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ニューヨーク！ 「フライト」 3 ニューヨーク！ 「空港、ホテル」 4 ニューヨーク！ 「タクシー、レストラン」 5 ニューヨーク！ 「質問をしてみる」 6 ロサンゼルス！ 「写真を撮る」 7 ロサンゼルス！ 「ショッピング」 8 まとめ 9 ロサンゼルス！ 「テーマパーク」 10 ロサンゼルス！ 「スポーツ観戦」 11 ハワイ！ 「カメラを失くす」 12 ハワイ！ 「お腹が痛くなる」 13 ハワイ！ 「ファーストフード」 14 ハワイ！ 「散策しよう」 15 まとめ 				
授業の留意点	<p>すべての講義に出席すること。担当者（野村）も活発になるようなクラス作りに努める。各自の担当の宿題をやることはもちろん、担当ではない部分についても事前に読んでくること。</p>				
学生に対する評価	<p>試験（60点）、宿題（10点）、参加態度（30点）</p>				
教科書（購入必須）	<p>『英語で話す マイワールド 240』 著・野村幸輝 2018年（初回講義の際に購入できる）</p>				
参考書（購入任意）	<p>『もっと遠くへ アメリカ 1986～1990』 著・野村幸輝（購入の必要はありません）</p>				

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	藤岡 順子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	世界の多くの国で英語は共通語として使われています。それに対応していくために自分の意見を簡単な英語で表現できるようにします。ネイティブの発音にならなくても世界の様々な国の人と簡単なコミュニケーションがとれるようにします。 日本の文化や習慣も英語で説明できるようにします。				
授業の概要	会話が主のテキストの他、映画のスク립ト、スヌーピーとその仲間の会話も使い授業を進めます。				
授業の計画	1 My Summer Break 2 Let's talk about Japan 3 Let's chat 4 Let's chat 5 What do you like 6 Talking about food and recipes (1) 7 Talking about food and recipes (2) 8 Let's talk about Japan 9 Talking about travel (1) 10 Talking about travel (2) 11 Let's talk about Japan 12 My opinions, your opinions 13 Do you agree? 14 Talking about my future plans 15 Review				
授業の留意点	辞書を持ってくること。パートナーとのロールプレイも行いますので、積極的に参加することをもとめます。				
学生に対する評価	隔週の小テストの合計を100% (100点) とし評価しますが、課題の提出なども加味し評価します。				
教科書 (購入必須)	コミュニケーション英語Ⅰで使うものを引き続き使います。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	前田 千早				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	The objectives of the second part of this course are the same as the goals for English I. After the completion of both courses, the students are hoped to have gained more confidence in English and to have enjoyed the English language.				
授業の概要	The classes will focus on a different topic every week. The students are encouraged to openly share their own experiences and interests with their classmates. There will be a variety of speaking, writing and listening assignments.				
授業の計画	1 Introduction 2 Giving Direction 3 Tanka 4 Recipe 5 Family Tree 6 Invitations 7 Photographs 8 Jobs 9 Shopping 10 School 11 How was yourtrip? 12 Life Boat 13 Term project 14 Term project 15 Term project				
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English at each lesson. Participation in class will be an important part of this course.				
学生に対する評価	Class participation (60点) Readers (20点) Term Project (20点)				
教科書 (購入必須)	Materials will be handed out in class Dictionary				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	野村 太				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	北海道を訪れる外国人が急増する傾向は今後も続くといわれています。皆さんもこれから先、思いがけない場面で英語を話さねばならない機会が来るでしょう。自信をもって会話できることを目標に掲げ、訓練します。				
授業の概要	音読、シャドーイングなどの方法を用いて基礎会話力をつけ、習熟度を見ながら応用編に入ります。				
授業の計画	1 Outline of the course 2 Traveling 3 Computers 4 TV 5 Hot springs 6 Drinking 7 Movies 8 Reading 9 Driving 10 Comics 11 Baseball & Soccer 12 Companies, Jobs, and Commuting 13 Co-workers, Working hours & Meetings 14 Vacations and Business trips 15 Review				
授業の留意点	授業中の居眠り、無断のスマホ操作は授業放棄とみなし、欠席に準ずる処置をとります。				
学生に対する評価	授業態度 50 点、期末テスト 50 点合計 100 点で評価します。無断欠席は 8 点、授業放棄行為は 5 点減点します。Moodle で規定語数に達しなければ不足語数 100 語につき 1 点減点、その反対に多く読めば加点します。				
教科書 (購入必須)	プリントを配付します。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅲ				
担当教員名	Martin Meadows				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>For 2018, this course will be offered in two stream options. Students may choose to participate in either, or both. Students who choose both, however, will still be awarded only one credit.</p> <p>Course option A focuses on broadening the listening and speaking skills developed in Communication I and II through the development of discourse and presentation skills. Students will acquire language and critical thinking skills that enable them to discuss and debate particular issues of personal relevance, organizing their ideas for coherence and supporting their opinions with reason and evidence.</p> <p>Course option B provides students with the opportunity to develop communication skills through immersion in an English-speaking environment. This will entail 3 weeks of language study abroad with some preparatory sessions that examine cross-cultural communication styles and customs of the host culture to be held in advance of departure from Japan.</p>				
授 業 の 概 要	<p>OPTION A: Classroom discussion and debate of a variety of contemporary social issues that affect our daily lives will take place in pairs and small groups. Students will take part in organized classroom debates and be required to judge debates made by their classmates. Finally, students will research and prepare an academic presentation on a topic of interest to them. To that end, students will design and conduct a survey to gather evidence in support of their proposition and practice debate strategies that will help them to organize their ideas for coherence and impact. This option will be held weekly over the course of the 15-week semester.</p> <p>OPTION B: A study-abroad session will be held over a roughly 3-week period from early to late March in Toronto, Canada. Students will take 24 hours of classes per week at a local language school with the possibility of organizing study tours and cultural activities on afternoons and weekends. Pre-departure, preparatory sessions will be held.</p>				
授 業 の 計 画	<p>OPTION Weekly Classroom Coursework A</p> <p>OPTION Study Abroad (Toronto, Canada) B</p>				
授 業 の 留 意 点	<p>OPTION A: Students will be expected to try to use English for all communication conducted in the classroom. Active participation is necessary and students will be urged to contribute to discussions and debates.</p> <p>OPTION B: Students are strongly urged to act independently and make efforts to interact with the local people and culture, as well as fellow students from other cultural backgrounds.</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	<p>OPTION A: Participation (40pts), questionnaire/mini-presentation (20pts) and final presentation (40pts).</p> <p>OPTION B: Participation (20pts), Journal writing (40pts) and Final Interview (40pts)</p>				
教 科 書 (購入必須)	<p>OPTION A: DISCOVER DEBATE (Language Solutions Inc.) and supplementary materials.</p> <p>OPTION B: Instructional materials provided by the host institution.</p>				
参 考 書 (購入任意)	<p>For the study-abroad option, students will be billeted with host families that provide accommodation and 3 meals per day. While prices can be expected to fluctuate, the total cost of this option will be roughly ¥400,000 inclusive of airfare, lesson fees a</p>				

科 目 名	入門ハングル				
担 当 教 員 名	黄 京性				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	外国語の中で言語体系が最も日本語に類似している韓国語を楽しく学べる。学ぶと同時に使える、話せる外国語であることを実感する。				
授 業 の 概 要	日常会話を中心にやさしく、よく使われる言葉を学習する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ハングルの構造など 2 基礎文法 3 ハングルの仕組み 4 子音字、母音字 5 合成音字、バッチム 6 日本語のハングル表記 7 会話（1）自己紹介 8 会話（2）趣味について 9 会話（3）用言の基本形と語幹 10 会話（4）用言の否定形 11 会話（5）漢数詞 12 会話（6）固有数詞 13 会話（7）～したい。～しましょう。 14 会話（8）総合活用 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	楽しみを徹底して追及することで自分のものに出来れば大成功！実際の場面で使ってみることが重要。				
学 生 に 対 する 評 価	テスト（80点）、授業中の取り組み（20点）で評価。				
教 科 書 （購入必須）	楽しく学べる韓国語（白水社）				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	入門ドイツ語				
担 当 教 員 名	古牧 徳生				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	ヨーロッパの中央に位置し、EU 経済を牽引するドイツの言葉はドイツ、オーストリー、スイスなど一億人の言語人口を有し、学芸において近代古典語ともいうべき地位を占めている。発音は単純でほぼローマ字読み、文法は概ね規則的で、複雑なのは形容詞の格変化くらいである。英語と同じ西ゲルマン語族であるドイツ文法の知識を持つことは、英文法をあらためて理解する助けにもなる。本授業ではその基本文法を声を出し、手で書いて習得し、あとは辞書があればおおよその意味がとれる程度まで基礎力の充実をめざしたい。				
授 業 の 概 要	教科書のほかにプリントで問題を配布する。それを授業の時に一問ずつ進めながら、冠詞や形容詞の変化を声に出し、書いて習得していこう。形容詞の規則的な変化さえ押さえれば、実はドイツ語の方が英語よりも学びやすい言語であることがわかってくるだろう。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 動詞の現在人称変化 2 名詞の性と冠詞の格変化 3 不規則変化動詞・命令形 4 定冠詞類・不定冠詞類 5 名詞の複数形・人称代名詞 6 前置詞 7 形容詞の格変化 8 形容詞の格変化(続き) 9 話法の助動詞・未来形 10 分離動詞・接続詞と副文 11 zu 不定詞と再帰代名詞 12 動詞の三基本形 13 現在完了・非人称表現 14 受動態 15 関係代名詞 				
授 業 の 留 意 点	辞書は必要ない。ただ毎回プリントが出るので必ず予習をしてくること。				
学 生 に 対 する 評 価	期末試験（100 点満点）で評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	PANORAMA Deutsche ver. 3.0 白水社				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	入門手話				
担 当 教 員 名	福島 麻由美				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高福)：選択
学 習 到 達 目 標	手話は、聴覚障害者の言語であることを理解する。 聴覚障害と、またそれに伴う情報障害についての理解を深める。 その上で、聴覚障害者の母語である手話の歴史と成り立ちを学び、簡単な日常会話程度の手話を覚える。				
授 業 の 概 要	手話はボランティアの小道具的な扱い方をされることも多く、成り立ちについても誤解されていることは多い。講義の中で手話ができるようになることを目指すのではなく、聴覚障害者を理解し、聴覚障害者の「命の言葉」としての言語である手話を理解していく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 手話を学ぶにあたって 2 手話の成り立ちと歴史 3 聴覚障害者について 4 指文字 数字の表し方 5 全国の都道府県名 6 自己紹介 1 名前の表し方 7 自己紹介 2 数詞を使って 8 自己紹介 3 趣味について 9 単語の数をふやそう 1 家族関係の表現 10 単語の数をふやそう 2 自然現象や色の表現 11 文章の基本 1 疑問文の作り方・答え方 12 文章の基本 2 文末の表現 13 文章の基本 3 可能・不可能・数量の表現 14 文章の基本 4 長文の表現 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず一緒に手を動かして、積極的に手話を覚える努力をする。 ・毎回必ずレポートを提出する。 ・その日の講義で学んだ手話を、確認・復習する。 				
学 生 に 対 す る 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 (60点) ・毎回提出のレポートによる評価 (40点) 				
教 科 書 (購入必須)	テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	基礎演習				
担 当 教 員 名	小古間・古牧・加藤(隆)・関・石川・今野(聖)・荻野・山本(達)・丸山・玉重・安永・中西・白井・寺山				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>「基礎演習」は、大学で学ぶために必要な基本的なリテラシー（読み書き能力）とコミュニケーション力を育むことを目標とする。「基礎演習」では、以下のことを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点をつかみながら文章を読む力を身に付ける。 ・文章を書くための基礎（主語と述語の関係、修飾する側とされる側、句読点など）を学ぶ。ディスカッションを通じて複眼的・多角的視点を育む。600字～800字程度の小論文を書く。 ・暗記中心の受動的な学習ではなく、能動的・主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。 				
授 業 の 概 要	<p>受講者全員が確実にレベルアップできるように授業はゼミナール形式で行なう。学科を超えた人間関係を作るためにクラス編成は4学科混成とする。学生全員の学習過程が把握できるように、1クラスの人数を10人程度とする。演習の進め方についてはクラス担当教員が明示する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 全体ガイダンス、担当教員の紹介、クラス分けなど 2 日本語の作文技術（1）主語－述語の関係 3 日本語の作文技術（2）句読点 4 日本語の作文技術（3）語彙 5 日本語の作文技術（4）修飾語 6 日本語の作文技術（5）比喻表現 7 文章読解（1）大意要旨 8 文章読解（2）複眼的・多角的視点 9 小論文作成（1）手順 10 小論文作成（2）文章の「型」 11 小論文作成（3）表現の工夫 12 小論文作成（4）推敲と添削 13 ディスカッションの技法（1）意見の受容 14 ディスカッションの技法（2）論理的思考 15 演習のまとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>遅刻や無断欠席をしないこと。ディスカッションに積極的に参加すること。課題を提出すること。無断欠席を2回以上した場合や、課題提出を怠った場合にはS（秀）はつかない。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>授業への積極的態（20点）、課題（80点）で評価する。</p>				
教 科 書 (購入必須)	<p>共通のテキストはないが、クラス担当教員が必要に応じて指示、あるいは資料等を用意する。</p>				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	専門基礎演習（栄養）				
担 当 教 員 名	市川 晶子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>将来、保健・医療・福祉の専門職の一つである管理栄養士を目指すものは、科学的、あるいは医学的な論理に基づいた報告書や起案書などを作成する能力を学生のうちからトレーニングしておく必要がある。</p> <p>この演習では、栄養学科で学ぶ内容が管理栄養士の仕事にどのように結びつくかをイメージしながら、管理栄養士業務の基礎的な知識、技術、考え方を身につけることを目的とする。また、エビデンスの確かな知識を得る方法、それらの情報を整理し、自らの言葉で論理的に表現する能力を獲得することを目標とする。</p>				
授 業 の 概 要	<p>栄養学科で学ぶ内容が管理栄養士の仕事にどのように結びつくかをイメージできるように、業務の基礎的な知識、技術、考え方を身につける。授業の前半から中盤は、講義、演習、現場の見学を組み合わせた学習を進める。後半は、データベースを利用するなどの文献の検索方法、そのエビデンスの評価法を学び、集めた文献を整理して、コピー&ペーストなどの盗用をせず、自らの言葉で文章のルールに従ったレポートを作成する。</p> <p>演習やデーター検索は、小グループに分かれ、学生相互の協力の下に進めるように工夫する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：栄養学科専門基礎演習のねらい 2 専門基礎科目と管理栄養士の仕事とのつながり 3 専門科目と管理栄養士の仕事とのつながり（1） 4 専門科目と管理栄養士の仕事とのつながり（2） 5 管理栄養士の仕事（1）食事計画の基礎①食事の成り立ち 6 管理栄養士の仕事（2）食事計画の基礎②食事の組み立て 7 管理栄養士の仕事（3）食事計画の基礎③作業の手順 8 管理栄養士の仕事（4）食事計画の基礎④食事の展開 9 管理栄養士の仕事（5）管理栄養士に必要なこと 10 管理栄養士の仕事（6）管理栄養士業務の実際 11 管理栄養士の仕事（7）管理栄養士の職場見学① 12 管理栄養士の仕事（8）管理栄養士の職場見学② 13 管理栄養士の知識（1）各種データベースの使い方と文献検索の方法 14 管理栄養士の知識（2）集積した資料からのレファレンス作成法、論理的、科学的なレポートの作成法（アカデミックライティング） 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>どのような管理栄養士になりたいか、そのためには何が必要かを考えながら授業に臨むこと。グループ活動では、グループ内の学生相互で協力し、意見を出し合って検討することを身につける。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>演習の取組状況（50点）、前半レポート（25点）、後半レポート（25点）により評価する。</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>別途指示する。</p>				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<p>必要に応じて紹介する。</p>				

科 目 名	専門基礎演習（看護）				
担 当 教 員 名	笹木・本吉・矢野・佐々木・中澤・納谷・齋藤・大西・岩田・鈴木・作並・渡邊・室矢				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>1. 入学直後から、同級生や先輩、教員との関係性の構築ができ、早期に大学生生活になじむことができる。</p> <p>2. 看護の専門性から、人間・社会・健康・看護に関連した身近なテーマ（課題）について探求することで、看護学への興味関心を高めることができる。</p> <p>3. 少人数での活動（課題発見、情報収集、文献講読、ディスカッション、レポート作成、プレゼンテーション）を通じて、看護実践の基盤となる基本的能力を身につけることができる。</p> <p>4. 初年次から自らの看護観を省察し、看護を志す自己の課題を明確化することができる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>入学後の早い時期に、友人や先輩、教員との関係性を築き早期に大学生生活になじめるために1泊2日で宿泊研修をおこなう。特に友人との関係構築により、その後のグループワークや大学生生活を円滑にすすめることができる。</p> <p>看護を総合的・科学的に捉え探求する最初として、人間・社会・健康・看護に関連した学生の身近なテーマ（課題）を設定し、少人数で文献講読、ディスカッションを行う。これらは、看護学への興味関心を高めると共に、看護実践の基盤となる基本的能力を涵養することができる。さらには、初年次から自らの看護観を省察し、看護を志す自己を見つめることにもつながる。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宿泊研修オリエンテーション 学生生活や看護を学ぶことの魅力を知る 2. 宿泊研修 先輩から大学生活の全てを伝授 3. 宿泊研修 同級生、先輩、教員とレクレーションなどを行い親睦をはかる 4. 宿泊研修 私の考える看護、看護とは何か グループディスカッション 5. 宿泊研修 私の考える看護、看護とは何か グループディスカッション 6. グループ活動 オリエンテーション、テーマ（課題）の選定 7. グループ活動 文献検索の仕方 文献講読 情報収集 デスカッション 8. グループ活動 文献検索 文献講読 情報収集 ディスカッション 9. グループ活動 文献講読 ディスカッション 10. グループ活動 文献講読 ディスカッション 11. グループ活動 文献講読 ディスカッション 12. グループ活動 文献講読 ディスカッションのまとめ 13. 全体 レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方 14. グループ活動 報告会準備 15. 報告会 まとめ レポート提出 				
授 業 の 留 意 点	<p>大学生活を楽しくするためには、自分から仲間作りをしていきましょう。分からないことは、先輩や教員に相談するとたくさんのアドバイスが受けられます。</p> <p>グループ活動は担当教員ひとりが入るゼミナール形式です。グループメンバー全員が主体性、積極性、そして協調性をもって取り組むことを期待します。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>課題の取り組み状況（テーマの設定、情報収集、文献講読、ディスカッション、報告会）主体性、協調性などの参加姿勢・態度 70点</p> <p>レポート課題：30点 上記を総合的に評価する。</p>				
教 科 書 (購入必須)	使用しない。				
参 考 書 (購入任意)	必要時、その都度、提示する。				

科 目 名	専門基礎演習（社会福祉）				
担 当 教 員 名	大坂・小野寺・佐藤(み)・玉重・黄・松倉・小野川・永嶋・堀・矢口・松浦・宮崎				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>社会福祉学科における専門基礎演習のねらい（目的）は、第1に、社会福祉学における知的理解を涵養し、学的体系の全般を概説的に理解し学習すること。第2に、社会福祉学における実践現場の理解と共に、歴史的事象から現代的事象に関する学習を促すこと。第3に、学生の個々の能力に応じたうえで社会福祉学に対する知的理解を涵養することである。</p>				
授 業 の 概 要	<p>専門基礎演習のねらいは、社会福祉（学）の概要について理論や実践、歴史などの視点から学び、学生一人ひとりの社会福祉（学）に対する理解や興味・関心を深めてゆくことです。こうしたねらいをもって、今年度の専門基礎演習は、①全体講義を通して社会福祉や関連領域の実践、他職種連携や地域社会との関わりなどについて学び、また、知的理解を深めレポートなどとしてまとめてゆくための方法について学びます。そして、②各グループでの学習を通して、学生一人ひとりの社会福祉に対する理解や興味・関心を深めてゆきます。ここでは、文献講読や調査学習、見学や交流など、グループ毎に多様な学習方法が展開されます。また、③3年生の実習報告会（2019年1月を予定）に参加し、福祉の現場が多様であることを知るとともに、実習に向けた学びのステップとします。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 顔合わせ・オリエンテーション 2 講義：ソーシャルワーク、特別支援 3 ゼミナール 4 ゼミナール 5 講義：論文・レポートの作法、図書資料・文献をどう使うか 6 ゼミナール 7 ゼミナール 8 ゼミナール 9 講義：連携教育の意義、地域社会の理解 10 ゼミナール 11 ゼミナール 12 ゼミナール 13 ゼミナール 14 実習報告会 15 実習報告会 				
授 業 の 留 意 点	担当の各教員により別途指示する。				
学 生 に 対 す る 評 価	受講態度 60 点、レポート課題 40 点で評価する。				
教 科 書 （購入必須）					
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	情報処理 I				
担 当 教 員 名	石川 貴彦				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	情報処理技術に関する基礎・基本を理解し、ワープロソフトを用いた文書の作成や、表計算処理ソフトを用いたデータの集計など、日常生活および専門科目に適用できるレベルまで情報処理能力を習得することを到達目標とする。				
授 業 の 概 要	授業では、情報機器の操作（OSの操作方法、プリンタ等周辺機器の使用方法）、文書の作成（電子メール、Word を利用した文書作成の方法）、情報の整理（Excel による数値データの処理、グラフの描画）の方法・技術について演習を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、学内コンピュータ・電子メールの使用方法、パスワードの変更 2 Windows の基本操作（起動・終了・保存・移動・複製・削除）、キー入力練習 3 Word を用いた文章の入力・印刷と編集機能、プリンタの使用方法 4 表の作成と編集 5 クリップアート、ワードアート、図形描画 6 スマートアート、段組み、ドロップキャップ、ページ罫線 7 はがき作成、差し込み印刷 8 Excel を用いたデータの入力・計算 9 ワークシートの活用 1（SUM、AVERAGE 関数、罫線のスタイル） 10 ワークシートの活用 2（絶対参照と相対参照、MAX、MIN、COUNT、COUNTA、IF 関数） 11 グラフの作成（棒グラフ、積み上げグラフ、折れ線グラフ、円グラフ、3D グラフ、複合グラフ） 12 データベース、データの抽出、ピボットテーブル 13 Excel の応用 1（RANK、LOOKUP、INDEX 関数） 14 Excel の応用 2（文字列、データベース関数） 15 3D 計算、Word への Excel の埋め込み 				
授 業 の 留 意 点	毎回の授業において課題を出すので、欠席はなるべくしないこと。また、進度の遅い者は課題が溜まっていく傾向にあるので、復習を行い演習のペースに遅れないようにすること。なお、他者が作成した課題をコピーして提出した者は、事情聴取の上、当該課題を採点から除外して評価を行う。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業で課す 13 課題の完成度によって評価を行う。課題点 90 点以上で受講態度良好の者は秀、課題点 80 点以上で態度良好の者は優、課題点 70 点以上で態度良好の者は良、課題点 60 点以上で態度良好の者は可とする。それ以外の者は不可とする。				
教 科 書 (購入必須)	実教出版編修部：30 時間でマスター Word2016、実教出版、2016 年 実教出版編修部：30 時間でマスター Excel2016、実教出版、2016 年				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	情報処理Ⅱ				
担 当 教 員 名	石川 貴彦				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	情報コミュニケーションおよびネットワークに関する基礎・基本を理解し、プレゼンテーション資料の作成、インターネットを利用した情報配信やコミュニケーションなど、日常生活および専門科目に適用できるレベルまで、情報発信能力を確実に習得することを到達目標とする。				
授 業 の 概 要	授業では、情報の表現・伝達(PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成)、情報の発信 (HTML タグによる Web ページの作成・配信) について演習を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、情報コミュニケーション・ネットワークとそのアプリケーション 2 PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成 3 プレゼンテーション資料のブラッシュアップ、図形の挿入 4 グラフの挿入、アニメーションの設定、リハーサルにおける操作 5 PowerPoint を活用した情報表現 (自作スライド1) 6 PowerPoint を活用した情報表現 (自作スライド2) 7 ホームページのしくみ、HTML 言語とは、Web デザインの基礎 8 画像の表示 (イメージタグ)、ハイパーリンク 9 表組み (テーブルタグ) 10 フレームタグ 11 スタイルシート 12 著作権、肖像権、情報発信者としての心構え 13 情報モラル、SNS との関わり方 14 Web ページによる情報発信 (自作ページ1) 15 Web ページによる情報発信 (自作ページ2) 				
授 業 の 留 意 点	毎回の授業において課題を出すので、欠席はなるべくしないこと。また、進度の遅い者は課題が溜まっていく傾向にあるので、復習を行い演習のペースに遅れないようにすること。なお、他者が作成した課題をコピーして提出した者は、事情聴取の上、当該課題を採点から除外して評価を行う。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業で課す 10 課題の完成度によって評価を行う。課題点 90 点以上で受講態度良好の者は秀、課題点 80 点以上で態度良好の者は優、課題点 70 点以上で態度良好の者は良、課題点 60 点以上で態度良好の者は可とする。それ以外の者は不可とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	実教出版編修部：30 時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2016、実教出版、2017 年 吉田喜彦、影山明俊：30 時間でマスター Web デザイン、実教出版、2003 年				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	統計学				
担 当 教 員 名	荻野 大助				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必修選択	看護：必修 栄養・社会福祉：選択	資 格 要 件	食品衛生：科目 B 保健師：必修
学 習 到 達 目 標	統計処理用プログラムソフト MS Excel および SPSS を使用して、基礎的な統計処理ができるようになること。				
授 業 の 概 要	保健福祉学部で学ぶ学生は、健康・保健・医療・福祉に関するデータや資料を正しく理解し、適切に取り扱う知識と技術を身につけることが必要である。統計学は、統計学の基礎とデータ処理の実際について学ぶ授業科目である。本授業科目では、データについて t 検定、 χ^2 検定を行ったり、回帰・相関を調べたりする。また、名義尺度や順序尺度などのカテゴリカルデータを処理する技法を学ぶ。さらに、統計解析ソフト (MS Excel や SPSS) を用いて、実際の質問紙調査などで集めた大容量のデータ処理に応用していく力を身につけさせる。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 データの整理～視覚的表示の利用～ 2 統計量について 3 統計学的推測の基礎 (1) 標本抽出 4 統計学的推測の基礎 (2) 仮説検定 5 平均値に関する推測 (1) 比率の差の検定 6 平均値に関する推測 (2) 平均値の差の検定 7 相関係数と回帰直線に関する推測 (1) 相関係数 8 相関係数と回帰直線に関する推測 (2) 回帰直線 9 頻度に関する推測 (1) 2×2 分割表 10 頻度に関する推測 (2) 異常値の判定 11 分散分析, 多重比較 (1) 分散分析 12 分散分析, 多重比較 (2) 多重比較 13 多変量解析 14 質問紙作成とデータ解析 (1) 質問紙作成 15 質問紙作成とデータ解析 (2) データ解析 				
授 業 の 留 意 点	教科書、(関数) 電卓、講義で配布した資料は、授業の際にすべて持参すること。授業の後は、必ず (課された課題を含め) 十分に復習すること。				
学 生 対 する 評 価	期末試験 (100 点満点) で評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	改訂版 やさしい統計学 ―保健・医薬・看護・福祉関係者のために (片平 遼彦 著) ISBN978-4-87647-480-6 授業に必要なプリントはその都度配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	参考書については、授業の際に提示する。				

科 目 名	スポーツ理論				
担当教員名	関 朋 昭				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	<p>スポーツが、社会の中でどのような立場をもち、私たちの生活と連結しているのかを広い視野に立って探求できることを目標とする。また、基本的な保健知識を理解するとともに、所属学科と本講義内容との連携を常に意識し、思考性を深めることをテーマとする。</p> <p>学習到達目標としては、スポーツと自分自身が専攻する学科を関連づけながら今日的課題をみつければ、することができるようになる、すなわち自分なりの「問い」を立てることができるようになることである。</p>				
授 業 の 概 要	<p>(1) 大学生としての保健に関する基本的な知識教養の習得と、スポーツとの関連性を理解する。</p> <p>(2) スポーツが、商業化される問題点と実社会との関係性を学ぶ。</p> <p>(3) スポーツと各学科との連携教育を意識する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：本講義のねらい 2 生活習慣とスポーツの捉え方について 3 運動の捉え方について 4 栄養の捉え方について 5 休養の捉え方について 6 大脳皮質と適応規制の関係 7 社会的欲求とスポーツについて 8 筋組成について 9 スポーツ倫理学 10 学校スポーツ（1）日本 11 学校スポーツ（2）諸外国 12 スポーツとマーケティングの考え方（1）スポーツプロダクト論 13 スポーツとマーケティングの考え方（2）スポーツプロデュース論 14 リーダーシップとチームワークの形成（1）チーム論 15 リーダーシップとチームワークの形成（2）組織論 				
授 業 の 留 意 点	<p>スポーツ、運動、健康に関連するニュース報道、新聞、SNSなどを媒体としながら情報を収集しておくことが学習成果を上げることになるため情報収集のための予習時間が必要不可欠なものとなる。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>小レポート 60 点。優秀なレポート、発表は 40 点で評価する。</p>				
教 科 書 (購入必須)	なし				
参 考 書 (購入任意)	関朋昭 (2015) 『スポーツと勝利至上主義』ナカニシヤ出版.				

科 目 名	スポーツ実技 I (栄養学科・社会福祉学科)				
担当教員名	関 朋昭				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実技
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職：選択必修
学 習 到 達 目 標	生涯スポーツを視野に入れ、多くの学生が、過去の体育授業で経験してきたバドミントン、バレーボールをとりあげ、それらの技術構造や練習方法を学習し、生涯を通じて明るく豊かな活力ある生活を営むことができる能力や態度を育成する。 学習到達目標としては、講義の中でどのようなふるまいが求められているのか、各人がリーダーまたはフォロワーとなり、自発的な行動が取れるようになることである。				
授 業 の 概 要	学習した「基礎技術」がゲームにつながらない「技術」であったりするが、この授業では、「応用技術」であるゲームにつながる「基礎技術」(論)を追求し、学習する。また、共同学習の場であるため、自己の役割を理解し他者と協力しながら種目を展開し進めていくことがねらいである。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ストレッチ運動・バレーボール基本練習 3 バレーボール(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 技術練習(オーバーハンドパス) 4 バレーボール(2) ①技術練習(アンダーハンドパス) ②ルール確認 ③試しのゲーム 5 バレーボール(3) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<1> ③試しのゲーム 6 バレーボール(4) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<2> ③試しのゲーム 7 バレーボール(5) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<3> ③ゲーム 8 バドミントン(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 ③技術練習(ハイクリア、ドライブなど) 9 バドミントン(2) ①技術練習(ハイクリア、スマッシュなど) ②主なルール ③簡易ゲーム 10 バドミントン(3) ①技術練習(サービス) ②戦術<1> ③ダブルスゲーム 11 バドミントン(4) ①技術練習(ドロップショットなど) ②戦術<2> ③ダブルスゲーム 12 バドミントン(5) 団体戦(ダブルスゲーム) 13 まとめ チーム編成および総合試合の戦略策定 14 まとめ 総合試合①(バレーボール、バドミントン) 15 まとめ 総合試合②(バレーボール、バドミントン) 				
授 業 の 留 意 点	服装は運動に適したものであること。ジャージ、トレーナー、Tシャツ、ショートパンツ等で、運動靴は球技専用のシューズが望ましい。栄養学科・社会福祉学科は後期の開講となる。 日頃から健康管理やスポーツに関わるメディア情報や関連書籍などに関心を持ち、予備知識を得ておくこと。				
学 生 対 する 評 価	評価は、授業での意欲・態度 80 点、レポートの提出 20 点とする。				
教 科 書 (購入必須)					
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	スポーツ実技 I (看護学科)				
担当教員名	関 朋昭				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実技
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職：選択必修
学 習 到 達 目 標	<p>生涯スポーツを視野に入れ、多くの学生が、過去の体育授業で経験してきたバドミントン、バレーボールをとりあげ、それらの技術構造や練習方法を学習し、生涯を通じて明るく豊かな活力ある生活を営むことができる能力や態度を育成する。</p> <p>学習到達目標としては、講義の中でどのようなふるまいが求められているのか、各人がリーダーまたはフォロワーとなり、自発的な行動が取れるようになることである。</p>				
授 業 の 概 要	<p>学習した「基礎技術」がゲームにつながらない「技術」であったりするが、この授業では、「応用技術」であるゲームにつながる「基礎技術」(論)を追求し、学習する。また、共同学習の場であるため、自己の役割を理解し他者と協力しながら種目を展開し進めていくことがねらいである。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ストレッチ運動・バレーボール基本練習 3 バレーボール(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 技術練習(オーバーハンドパス) 4 バレーボール(2) ①技術練習(アンダーハンドパス) ②ルール確認 ③試しのゲーム 5 バレーボール(3) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<1> ③試しのゲーム 6 バレーボール(4) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<2> ③試しのゲーム 7 バレーボール(5) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<3> ③ゲーム 8 バドミントン(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 ③技術練習(ハイクリア、ドライブなど) 9 バドミントン(2) ①技術練習(ハイクリア、スマッシュなど) ②主なルール ③簡易ゲーム 10 バドミントン(3) ①技術練習(サービス) ②戦術<1> ③ダブルスゲーム 11 バドミントン(4) ①技術練習(ドロップショットなど) ②戦術<2> ③ダブルスゲーム 12 バドミントン(5) 団体戦(ダブルスゲーム) 13 まとめ チーム編成および総合試合の戦略策定 14 まとめ 総合試合①(バレーボール、バドミントン) 15 まとめ 総合試合②(バレーボール、バドミントン) 				
授 業 の 留 意 点	<p>服装は運動に適したものであること。ジャージ、トレーナー、Tシャツ、ショートパンツ等で、運動靴は球技専用のシューズが望ましい。看護学科は前期の開講となる。</p> <p>日頃から健康管理やスポーツに関わるメディア情報や関連書籍などに関心を持ち、予備知識を得ておくこと。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>評価は、授業での意欲・態度 80 点、レポートの提出 20 点とする。</p>				
教 科 書 (購入必須)					
参 考 書 (購入任意)					

科目名	スポーツ実技Ⅱ					
担当教員名	関 朋昭・荻野 大助・今野 聖士・敦賀 信人					
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	実技	
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職：選択必修	
学習到達目標	<p>スポーツ実技Ⅱは、名寄市の地域資源を活用し、生涯スポーツとして親しむことのできるウィンタースポーツの修得をめざしている。この講義では、雪質日本一と呼ばれる名寄市の自然環境を生かしたスキー、および全国でも恵まれた競技環境にあるカーリングをとりあげる。スキーおよびカーリングは選択制とし、どちらか一方のみ履修可能とする。</p>					
授業の概要	<p>(スキー) 授業では、スキー(スラローム)の基本技術を、「重心の先行を伴う左右交互荷重」とおさえ、「プルークボーゲン」を「基礎滑降法」と位置づけ、ブライトターンを経て、パラレルターンへと発展させる。学外実習であるため、地域社会との交流といったことも本講義のねらいでもある。(関)</p> <p>(カーリング) まずカーリングについての基礎知識を学び、実技は氷になれるところから始める。基本動作の練習を行った後、チームを編成してゲームの実戦を行い、戦略を練るところまでをめざす。(敦賀)</p>					
授業の計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>授業計画(スキー)</p> <p>第1日目 午前—実技① 午後—実技② 第2日目 午前—実技③ 午後—実技④ 第3日目 午前—実技⑤ 午後—実技⑥</p> <p>*7月に初回ガイダンスを行う *10月と12月初旬に、オリエンテーション及びガイダンスを行う</p> <p>学習プログラム・A(初心者および初級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初歩動作 — 歩き方、坂の上り方、方向転換 2. 滑走感覚養成 — 直滑降、プルークファーレ→山回り→停止 3. 基礎滑降法 — プルークでの左右交互荷重による大回り、小回り <p>学習プログラム・B(初中級者および中級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブライトターン — ターンの切り換えにおける諸動作とタイミング 2. 開脚パラレルターン — 立ち上がり抜重による同時切り換え <p>学習プログラム・C(中級者および上級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カービングターン — エッジ感覚重視の同時切り換え → 緩・中・急斜面 2. ウェルデン — 速いタイミングによる同時切り換え → 緩・中・急斜面 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>授業計画(カーリング)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ルール・ポジションの役割 ②氷の状態・カーリングの歴史 ③用具などの説明 ④カーリング技術の基礎(氷に慣れる) ⑤カーリング技術の基礎(リリースフォームなど) ⑥カーリング技術の基礎・メンタルトレーニング(スウィーピング) ⑦カーリング技術の基礎(作戦) ⑧ゲームの進め方とその実際(先攻・後攻の有利・不利) ⑨ゲームの進め方とその実際(氷の状態に合った作戦) ⑩ゲームの進め方とその実際(チームに必要なこと・チーム作り) ⑪ゲームの進め方とその実際(勝ってる時、負ける時の作戦) ⑫より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう レベルに合ったショット・作戦 ⑬より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう カーリングに必要なもの ⑭より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう ⑮技術と戦略作りのまとめ </td> </tr> </table>				<p>授業計画(スキー)</p> <p>第1日目 午前—実技① 午後—実技② 第2日目 午前—実技③ 午後—実技④ 第3日目 午前—実技⑤ 午後—実技⑥</p> <p>*7月に初回ガイダンスを行う *10月と12月初旬に、オリエンテーション及びガイダンスを行う</p> <p>学習プログラム・A(初心者および初級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初歩動作 — 歩き方、坂の上り方、方向転換 2. 滑走感覚養成 — 直滑降、プルークファーレ→山回り→停止 3. 基礎滑降法 — プルークでの左右交互荷重による大回り、小回り <p>学習プログラム・B(初中級者および中級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブライトターン — ターンの切り換えにおける諸動作とタイミング 2. 開脚パラレルターン — 立ち上がり抜重による同時切り換え <p>学習プログラム・C(中級者および上級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カービングターン — エッジ感覚重視の同時切り換え → 緩・中・急斜面 2. ウェルデン — 速いタイミングによる同時切り換え → 緩・中・急斜面 	<p>授業計画(カーリング)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ルール・ポジションの役割 ②氷の状態・カーリングの歴史 ③用具などの説明 ④カーリング技術の基礎(氷に慣れる) ⑤カーリング技術の基礎(リリースフォームなど) ⑥カーリング技術の基礎・メンタルトレーニング(スウィーピング) ⑦カーリング技術の基礎(作戦) ⑧ゲームの進め方とその実際(先攻・後攻の有利・不利) ⑨ゲームの進め方とその実際(氷の状態に合った作戦) ⑩ゲームの進め方とその実際(チームに必要なこと・チーム作り) ⑪ゲームの進め方とその実際(勝ってる時、負ける時の作戦) ⑫より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう レベルに合ったショット・作戦 ⑬より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう カーリングに必要なもの ⑭より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう ⑮技術と戦略作りのまとめ
<p>授業計画(スキー)</p> <p>第1日目 午前—実技① 午後—実技② 第2日目 午前—実技③ 午後—実技④ 第3日目 午前—実技⑤ 午後—実技⑥</p> <p>*7月に初回ガイダンスを行う *10月と12月初旬に、オリエンテーション及びガイダンスを行う</p> <p>学習プログラム・A(初心者および初級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初歩動作 — 歩き方、坂の上り方、方向転換 2. 滑走感覚養成 — 直滑降、プルークファーレ→山回り→停止 3. 基礎滑降法 — プルークでの左右交互荷重による大回り、小回り <p>学習プログラム・B(初中級者および中級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブライトターン — ターンの切り換えにおける諸動作とタイミング 2. 開脚パラレルターン — 立ち上がり抜重による同時切り換え <p>学習プログラム・C(中級者および上級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カービングターン — エッジ感覚重視の同時切り換え → 緩・中・急斜面 2. ウェルデン — 速いタイミングによる同時切り換え → 緩・中・急斜面 	<p>授業計画(カーリング)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ルール・ポジションの役割 ②氷の状態・カーリングの歴史 ③用具などの説明 ④カーリング技術の基礎(氷に慣れる) ⑤カーリング技術の基礎(リリースフォームなど) ⑥カーリング技術の基礎・メンタルトレーニング(スウィーピング) ⑦カーリング技術の基礎(作戦) ⑧ゲームの進め方とその実際(先攻・後攻の有利・不利) ⑨ゲームの進め方とその実際(氷の状態に合った作戦) ⑩ゲームの進め方とその実際(チームに必要なこと・チーム作り) ⑪ゲームの進め方とその実際(勝ってる時、負ける時の作戦) ⑫より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう レベルに合ったショット・作戦 ⑬より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう カーリングに必要なもの ⑭より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう ⑮技術と戦略作りのまとめ 					
授業の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3日間の集中講義で実施する(積雪の状況から冬季休業期間中もしくは土曜日と日曜日の実施となる)。 2. スキーのリフト代は個人負担とする。ウェア、帽子、グローブ、ゴーグルなどは各自用意すること。カーリング用具はレンタル可能(個人負担)。 3. スキーは10月のオリエンテーションでは事前調査用紙を記入し提出し、12月のガイダンスではグループ分けと事前確認を行う。 4. 【重要1】受講希望者が多い場合、抽選とし人数制限をすることがある。 【重要2】初回のガイダンス不参加者は、履修意思がないものと考え履修資格を認めない。 ゆえに、掲示板を見逃さないように(スキーは7月、カーリングは10月予定)。 【重要3】スキーは二回目(10月予定)、三回目(12月予定)のガイダンスに関しても、 【重要2】と同様に、不参加者は履修意思がないものと考え履修放棄したとみなす。 					
学生に対する評価	評価は、授業での意欲・態度80点、レポートの提出20点とする。					
教科書(購入必須)	テキストは使用しない。					
参考書(購入任意)						

科 目 名	教育学				
担 当 教 員 名	加藤 隆				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教(高公)必修 教(中社・高福)選
学 習 到 達 目 標	<p>社会の急激な変化の中で、子ども達も変わってしまったという議論や指摘は多い。一体、子ども達の何が変わったのだろうという問いを大切に授業を進めたい。そのことを具体的には、気質、心身、生活、関わりというキーワードから考えてみたい。また、そのような変化の背景や要因についても触れながら、子どもの全体像に迫りたい。そして、子どもの変化について問うことは、必然的に教育の課題や在り方を問うことにつながる。このようなことを通じて、受講生は自ら問題意識を持ち、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を育成する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>前半においては、子どもの家庭や地域社会での生活を中心に引き上げ、食生活や家族との関わり、マスメディアの圧倒的な情報の中での孤独や関わり減少とが及ぼす実態や教育との関わりについて考える。後半では、学校教育から派生することがらを中心に引き上げ、小一プロブレム、多様化する中学校の実情、教師の課題と可能性などについて考えたい。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもは変わったか（戦前の子どもの姿を中心に） 2 子どもは変わったか（戦後の子どもの姿を中心に） 3 社会的権威の変化（権威の不在の中での子ども） 4 孤立する子ども達（豊かさの中での孤独） 5 子どもの五感の変化（アンバランスな五感の実態） 6 少年問題の噴出と対応策（その特徴と、求められるカウンセリング） 7 学校の中の子ども達（子どもに学校はどう映っているか） 8 教室の中の子ども変化（漂流する多数の個） 9 中学生問題に向き合う（問題を潜在化させる子ども達） 10 多様化する高校生たち（地方の高校の挑戦） 11 教師の可能性を探る（国際比較の中で教師像を考える） 12 学校改革の視点（何は改革すべきなのか、何は守るべきなのか） 13 家庭教育の見直し（現代家庭の危うさと可能性） 14 地域の教育力を構築する（過疎化の中で地域にある力とは） 15 これからの教育を考える（グループ発表、意見交流） 				
授 業 の 留 意 点	<p>自身の経験や課題意識など、教育についての問題意識を持って履修してください。予習も重視したい。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>評価は、授業での意欲・態度 30 点、レポートの提出 30 点、及び試験 40 点による。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>なし。資料は毎回教師が用意します。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>参考書については、講義開始時、指示します。</p>				

科 目 名	哲学				
担 当 教 員 名	古牧 徳生				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(中社・高公)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>まずは古代人になったつもりで自然を観察しよう。何か規則的なものがあることが分かるだろう。それは目を凝らしても見えないし、耳を澄ましても聞こえない。となると考えるしかない。そこで古代人は理屈に理屈を重ねていくうちに、自然を超えたものを想定するに至った。しかし感覚できないものがどうして分かるのか。こうして彼らは懐疑に陥った。それを乗り越えるため、人類に恩寵を約束するキリスト教の神を前提にしたことで哲学は中世においては神学になった。だが神学の言うところは哲学以上に曖昧であるから、やがて懐疑が復活した。神学が駄目となると後は感覚に頼るしかないから、感覚できる現象を繰り返し観察していくうちに中世の自然学者たちは実験という手法を生み出した。その結果を数字で表現することを思いついたとき、科学が誕生した。もうお分かりだろう。哲学とはすべての学問の根幹であり、すべての学問は哲学の一部なのだ。だから哲学の歩んだ道を知るとは、学問のあるべき姿を知る助けになる。つまりどんな学問も、豊富なデータを土台に論理的思考を重ねていかねばならないのである。そのことを知るまでの先人の苦闘を辿っていこう。</p>				
授 業 の 概 要	<p>いかなる学問も確実な認識ができなければ成立しない。ではその確実な認識はいかにすれば可能なのか。いや、その前に確実な認識は可能なのだろうか。いや、そもそも確実なものなどあるのだろうか。古代ギリシア以来、人類を悩まし続けてきた難問とそれへの先人たちの苦闘を見ていくことで、人間の能力には絶望的困難があることを理解し、これから大学で学んでいくうえで必要な知識に対する謙虚な態度を涵養してもらいたい。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 本 当 に 在 る も の の 探 求 2 ソクラテスの問いかけ 3 プラトンのイデア論 4 アリストテレスの超自然 5 懐疑主義と神秘主義 6 アウグスチヌスの方法的信仰 7 初期中世哲学 8 大学の誕生とアリストテレスの流入 9 哲学と神学の関係 10 後期中世哲学と懐疑の復活 11 デカルトの方法的懐疑 12 理性主義の世界観 13 イギリスの経験主義 14 カントの批判哲学 15 人格的神の退場 				
授 業 の 留 意 点	<p>異常に板書が多いが、これはどうにもならない癖である。書かないと考えられないし、なによりも言葉が出てこない。ただし書いてある内容は陳腐なものだから、皆さんは無理して書く必要はない。もちろん書きたければ書いてもよい。本邦最北の哲学の思い出として。なお10回目くらいまでの内容は紀要に書いてあるので興味のある方はそれを読んでみればよい。内容的に整理されているし、少なくとも黒板の悪筆に悩まされる心配はない。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>期末試験（100点満点）で評価する。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>特になし。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>『哲学のアポリア』(J.&S.Rachels 著 晃洋書房)</p>				

科目名	心理学				
担当教員名	糸田 尚史				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	社会福祉：必修 栄養・看護：選択	資格要件	教(高公)・社福士・精保士：必
学習到達目標	「心理学」という学問について網羅的に学び、扱われるトピックスについて理解し、専門領域や日常生活へ応用する。人間や動物の心と行動を「心理学的にみることが出来る」「心理学的に理説明することができる」ようになる。人間の認知や発達などに関する知識と理論に基づき、心理的な支援のできる専門職者を目指す。				
授業の概要	人間（動物）の心と行動を客観的・科学的に研究する学問としての「心理学」について、日常生活にひそむ心理学的な現象を実際に体験し、脳にハッキングをかけ、心理系映画なども視聴し、体系的かつ実践的に学習する。また、多数の写真やイラストのスライドなどから、人間の認知、子どもから大人までの生涯発達、心理的支援などについて考える。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> はじめに：履修上の注意事項、成績評価の方法、簡易な教育心理学的実験の演習 感覚・知覚・認知①：感覚・知覚、感覚遮断、順応、閾、サブリミナル効果、ブライミング効果、知覚的セット（構え）、目、盲点の実験、視覚 感覚・知覚・認知②：色彩視、色覚異常、図と地、ルビンの盃、ゲシュタルト知覚、両眼視差、立体視、奥行知覚、エイムズの部屋 感覚・知覚・認知③：錯視、錯覚、動く錯視（北岡明佳）、ミュラー＝リヤー錯視、サッチャー（トンプソン）錯視、シェパード錯視、恒常性、擬態 感覚・知覚・認知④：耳、聴覚、音源定位、腹話術効果、マガーク効果、鼻、嗅覚、舌、味覚、うま味、味覚嫌悪学習 感覚・知覚・認知⑤：触覚、ホムンクルス、アリストテレスの錯覚、アフォーダンス、応用心理学、認知と文化 記憶：多重（二重）記憶モデル、系列内位置効果、H・M氏、感覚記憶、ワーキングメモリー（短期記憶）、長期記憶、記憶術、忘却、虚偽記憶 思考・言語・知能：思考、概念、推論、問題解決、ウェイソン選択課題、ヒューリスティックス、言語、言語相対性仮説、言語獲得、失語症、言語検査、知能理論、知能指数、知能検査、知的能力障害 学習：古典的条件づけ、強化、消去、般化、弁別、生物学的制約、オペラント条件づけ、問題箱、動因低減説、洞察学習、潜在学習、社会的学修理論、学習転移 感情・動機づけ：誘導運動、感情生起のメカニズム、動機づけ、内発的動機づけ、欲求階層説、葛藤、欲求不満、原因帰属理論、自己効力感、学修性無力感 性格・パーソナリティ：類型（タイプ）論、特製論、ビッグ・ファイブ、力動論、状況論、相互作用論、性格検査、ロールシャッハ検査、TAT、PF スタディ、Y-G 性格検査 社会と集団：社会的促進、社会的抑制、社会的手抜き、援助行動、社会的比較過程理論、自己開示、対人魅力、リーダーシップ、集団浅慮、態度変容、バランス理論、同調実験、服従、偏見・差別、説得、認知的不協和 発達：生涯発達、発達段階、相互作用説、エソロジー（動物行動学）、アタッチメント（愛着）、認知発達、アイデンティティ（自我同一性）、中年期の危機、結晶性知能 心理臨床：ストレス、汎適応症候群、タイプA・B・C、トラウマ、PTSD、サバイバーズ・ギルト、心理アセスメント、心理的障害、サイコセラピー、カウンセリング、精神分析 まとめ 				
授業の留意点	心理学という学問を楽しんで学んでほしい。 配布資料は順番に綴り、遺漏のないように管理すること。				
学生に対する評価	(1) レポート形式による期末試験：50点 (2) 授業毎の小レポート：30点 (3) 授業参加態度：20点				
教科書（購入必須）	山村豊ほか 『心理学 [カレッジ版]』 医学書院 2017年				
参考書（購入任意）	板口典弘・相馬英恵ほか 『ステップアップ心理学シリーズ 心理学入門 ころを科学する10のアプローチ』 講談社 2017年 長田久雄（編） 『看護学生のための心理学：第2版』 医学書院 2016年 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編） 『心理学：第5版』 東京大学出版会 2015年 下山晴彦（編） 『誠信 心理学事典（新版）』 誠信書房 2014年				

科 目 名	生命倫理				
担 当 教 員 名	古牧 徳生				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	看護：必修 栄養・社会福祉：選択	資 格 要 件	教職(中社・高公)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>20 世紀半ば、医療技術の進歩により植物状態や臓器移植、さらには経口避妊薬が現れたことは医療の現場のみならず社会全体にも大きな影響を与えた。従来の医療倫理が現実によって乗り越えられてゆく有様をみて、医療関係者たちは個々の例に即応した状況主義的解決を模索するようになった。それが生命倫理という 20 世紀の決議論 Casuistry である。本授業の到達目標は次の二つである。</p> <p>(1) 生命倫理において議論されている主要な問題点を理解する。 (2) それらの問題の背後にはいかなる思想があるのか洞察する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>生命倫理が登場した 60 年代の時代背景からまずパーソン論を説明し、そこから第Ⅰ部として安楽死・尊厳死、脳死と臓器移植、脳死体利用とアニマリズムを、第Ⅱ部として中絶、人工授精、体外受精、遺伝子治療、遺伝管理社会を、第Ⅲ部として万能細胞やクローン人間、遺伝子改良など遺伝子医療の近未来を見ていきたい。全体を通せば「権利主体をどう確定するか」(パーソン論)が第Ⅰ部と第Ⅱ部の問題であり、それはつまりところ人間観の問題であり、究極的には世界観にまで行きつく。つまり社会の宗教離れにより、それまでの規範が力を失ったため、行為の是非は個人の欲望で判断する以外になくなってしまったのである。では個人の欲望がすべてとなると将来はどうか。それが第Ⅲ部の問題である。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 序論 第二次大戦後の医療の発達と伝統的な医療倫理 2 続き 中絶問題とパーソン論 3 1-1 生命の終わりに関わる医療・終末期医療 4 続き 安楽死から尊厳死へ 5 1-2 脳死と臓器移植 6 1-3 脳死体と動物の地位 7 2-1 生命の始まりに関わる医療・出生回避 8 続き 避妊から中絶へ 9 2-2 生殖補助・人工授精 10 続き 体外受精と代理出産 11 続き 超高齢出産と死後生殖 12 2-3 出生操作 13 続き 優生思想と遺伝管理社会 14 3-1 遺伝子に関わる医療 万能細胞と iPS 細胞 15 3-2 クローン人間 				
授 業 の 留 意 点	<p>板書が非常に多いが、無理に写す必要はない。真面目に聞いてくれれば結構。医学の進歩が皆さ人一人一人にとって切実な問題であること、人類全体としても大変な曲がり角にあること、さらには従来の倫理観がもはや曲がり角に来ていることが理解できることだろう。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>期末試験（100 点満点）で評価する。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>なし。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>『基礎から学ぶ生命倫理学』村上喜良(勁草書房) 『生命倫理の教科書』黒崎剛/野村俊明(ミネルヴァ書房) 『神と生命倫理』古牧徳生編(晃洋書房)</p>				

科 目 名	文化人類学				
担当教員名	渡部 裕				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(中社・高公)：選択
学習到達目標	本講義の主要な目標は、文化人類学の根幹である民族学を学ぶことによって、人類の文化や社会の在り方の多様性を理解するとともに、他者の文化・社会に対する自己の認識・価値観を見つめ直すための視点を養うことです。また、寒冷な北方地域に暮らしてきたアイヌを含む北方諸民族の文化を知ること、さまざまな工夫や英知が込められた北方の文化の特徴を学びます。				
授業の概要	文化人類学(民族学)の歴史や学説の概要を学び、具体的な研究事例からさまざまな文化や社会のあり方、歴史的な変化や文化の相互作用、また北方諸民族の文化的特徴などを学びます。さらに、他者の文化を理解する方法を考えます。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 文化人類学とは：人類学・文化人類学の研究分野と基本概念 2 人類の進化と移動・拡散：われわれはどこから来たか 3 日本の人類学・文化人類学の始まり：柳田国男、宮本常一、鳥居龍蔵の調査研究 4 参与観察に基づく民族調査：B. マリノフスキー、F. ボアズ、原ひろ子の調査から 5 アメリカの文化人類学：F. ボアズと後継者たち 6 寒冷環境における人類の適応：北方諸民族の文化 7 アイヌの歴史と文化：北太平洋沿岸における位置づけ 8 記録されたアイヌ文化：文書と絵画にみるアイヌ文化 9 毛皮交易と北方諸民族の経済活動 10 文化接触①：北洋漁業の日本漁民とカムチャツカ先住民との事例 11 文化接触②：イヌイト(エスキモー)の事例 12 近代国家の先住民経済と社会 13 現代の先住民社会：カムチャツカにおける現状 14 パナナ、ナマコ、エビをめぐる文化人類学 15 文化の多様性と文化相対主義 				
授業の留意点	本講義では各受講者が積極的に文化人類学(民族学)を学ぶ姿勢が重要であり、授業のなかで適宜、質問や小レポートによって受講者の理解度や意見・感想を確認します。				
学生に対する評価	講義修了後のレポート(50点)と、随時行う小レポート(50点)によって評価します。また、授業態度も加味します。				
教科書(購入必須)	適宜、プリントを配布します。				
参考書(購入任意)	参考図書については、講義の際に指示する予定。				

科 目 名	芸術文化論				
担 当 教 員 名	小古間 甚一・今野 道裕				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>「教養」とは、知識の量ではなく、幅広く学び、複眼的視点から思考する姿勢である。文学・映画・アニメなどの芸術を幅広く複眼的な視点から読み解くことの重要性和面白さを学ぶ。(小古間)</p> <p>人間にとって「芸術」とはどんな意味を持つものなのだろうか。「美術」「演劇」「文学」を具体的にに取り上げ、その歴史的変遷と今日の展望を、主にヨーロッパと日本を比較研究することで、人間と芸術の関りを理解する。(今野)</p>				
授 業 の 概 要	<p>おもに19世紀～21世紀の文学や映画やアニメなどを取り上げる。毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで学生と教員が対話できるような授業を行う。(小古間)</p> <p>私と「芸術」との関りについて紹介する授業を行う。必要に応じて自作資料・映像資料等を紹介し、その中で人生において芸術の果たす役割、さらに芸術が人類にとってどんな役割を持っているのかを考えてもらう。(今野)</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 文学と政治・社会 「教養」とは何か。ドーデの「最後の授業」を読む(小古間) 2 お姫様とジェンダー1 1930年代のディズニー映画『白雪姫』(小古間) 3 お姫様とジェンダー2 21世紀の「白雪姫」たち(小古間) 4 病と文学1 宮崎駿の「風立ちぬ」(小古間) 5 病と文学2 堀辰雄の『風立ちぬ』(小古間) 6 チャップリンとアメリカ 「モダン・タイムス」における労働の問題(小古間) 7 チャップリンとアメリカ2 「モダン・タイムス」とアメリカ1930年代(小古間) 8 老いと文学 有吉佐和子『恍惚の人』における老いの問題(小古間) 9 ヨーロッパの建物(今野) 10 ある画家の生き方 ゴッホ(今野) 11 ある画家の生き方 フェルメール(今野) 12 アンネの日記 平和と文学(今野) 13 ピーターラビット 文学と自然(今野) 14 絵本を読み解く(今野) 15 劇を作る 「卒業公演」の脚本から(今野) 				
授 業 の 留 意 点	<p>文学研究や文化研究の考え方は保健医療福祉の分野での応用も可能なので、授業内容をしっかり聞いて理解し、専門課程の学習に活かしてもらいたい。体系的に学ぶ授業ではないので、授業のテーマの順番が変更になることがあるので注意してほしい。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	<p>授業参加態度リアクションペーパー(50点) 課題レポート(50点)(小古間)</p> <p>授業参加態度(50点)、課題レポート(50点)(今野)</p> <p>2人の成績を合算して小古間が最終評価を行う。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>教科書は使用しない。プリントを配布する。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>「白雪姫」「モダンタイムス」など授業で扱う映画は図書館にあるので、事前に視聴しておいてほしい。</p>				

科 目 名	日本国憲法				
担 当 教 員 名	松倉 聡史				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	学習到達目標を①立憲主義の憲法という意義を理解すること、②日本国憲法の成立の根拠を理解すること、③日本国憲法の平和主義の意義を理解すること、④憲法の基本原理や理念を理解すること、⑤人権の分類と体系を理解すること、⑥人権と統治機構との関係を理解することとする。				
授 業 の 概 要	立憲的意味の憲法を理解しつつ、憲法は国民一人ひとりを権力者から守るために制定されたことを学ぶ。憲法は人権保障の定めと国家の機能を立法・行政・司法の三つに分類し、三権分立による統治機構の定めもおかれている。日本国憲法は時代に流されない恒久な価値を示すものとして、日本の国民の幸福のためにつくられていることを深く理解し、学ぶこととする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の進め方・・・憲法とは何か 2 立憲主義とは何か 3 法の支配とは何か 4 日本国憲法の基本原理 5 基本的人権とは何か 6 法の下での平等とは何か 7 精神的自由権（1）思想・良心の自由、信仰の自由 8 精神的自由権（2）表現の自由 9 経済的自由権 10 社会権（1）生存権 11 社会権（2）教育を受ける権利 12 権力分立 13 国会 14 内閣 15 裁判所 				
授 業 の 留 意 点	憲法が権力者の上位に立ち、権力者に歯止めをかけることにあり、「国民に権利・自由を保障すること」を目的とするものであることに留意して、学ぶ必要がある。そのような視点から、憲法改正の論議についても考察する。				
学 生 に 対 す る 評 価	授業参加態度（10点）、リアクションペーパー（20点）、レポート試験（70点）によって総合的に評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	「伊藤真の憲法入門」（日本評論社）を利用したい。適宜、プリント等を配布したい。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	参考書として、芦部信喜「憲法」（岩波書店）を利用する。				

科 目 名	経済学				
担当教員名	今野 聖士				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(中社・高公)：必修
学 習 到 達 目 標	①経済学という学問の世界観・ものごとの捉え方を理解できる、②資本主義経済の段階的発展および各段階における特徴を理解できる、③社会人として最低限身につけておくべき経済学の知識(明治以降の経済史を含む)を習得する、以上の3つの能力を育成する。				
授 業 の 概 要	経済学は、「資本主義」という仕組みによって成立している人間社会の仕組みを理解しようとする学問である。モノの〈生産・流通・分配〉のしくみや、貨幣(お金)・金融システム、市場原理主義と格差社会等のテーマについて解説する。また、日本経済を事例として、資本主義経済の歴史を取り上げる。経済学の初心者でも理解できるように、できるだけ例をあげて説明する。スライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス—経済学とは何か— 2 分業の利益 3 需要と供給・価格メカニズム 4 市場の効率性 5 市場の限界①(情報の非対称性・モラルハザード・逆選択) 6 市場の限界②(所得分配の不公平・貧困問題) 7 労働市場の機能と限界 8 GDP 9 貨幣と中央銀行 10 政府の役割 11 外国為替市場の仕組み 12 株式市場の仕組み 13 日本経済のあゆみ①(明治期からWW1まで) 14 日本経済のあゆみ②(WW1からWW2まで) 15 日本経済のあゆみ③(戦後について) 				
授 業 の 留 意 点	講義の最後 10 分程度を使ってその講義に関する質問を書き、提出を求める(必須・評価対象)。受講人数によっては全てに答えられません。基本的には次の講義の冒頭で回答し、双方向の講義展開を行います。 新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通しておくとより理解が深まる。				
学 生 に 対 す る 評 価	毎回の質問票で 30 点、期末レポート 70 点の合計 100 点で評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	使用しない。毎回資料を配付する。期末レポートの際に必要なので無くさずに保存しておくこと。専用のファイル等を用意することが望ましい。				
参 考 書 (購 入 任 意)	指定しない。必要があれば講義中に随時紹介する。				

科目名	現代経済論（国際経済を含む）				
担当教員名	今野 聖士				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職(中社・高公)：必修
学習到達目標	①現代日本の経済システムと経済問題を理解して説明できる ②社会で生じているさまざまな問題を、経済学の視点から論じることができる ③グローバル化しつつある世界経済のしくみを理解して説明できる 以上の3つの能力を育成する。				
授業の概要	現代経済論では、グローバル化する世界経済の下で、戦後70年を迎えた日本経済が今どうなっているのか。また、どのようにここまで歩んできたのか。そしてどのような理論でそれを説明することが出来るのか。と言った視点を持ちながら、現代日本の経済と関連する国際経済について解説していく。 講義の形式としてはスライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。				
授業の計画	1 ガイダンス日本経済のいま―戦後70年の日本経済― 2 日本経済の成長と循環①（アベノミクス景気・均衡成長・グローバリゼーション） 3 日本経済の成長と循環②（経済成長と景気循環） 4 望ましい物価とは①（デフレ経済・資産価格） 5 望ましい物価とは②（価格理論） 6 財政は再建できるのか①（高齢化と財政負担・財政改革・年金改革） 7 財政は再建できるのか②（財政の仕組み・財政の理論） 8 金融政策はどう変わったのか①（戦後金融システム・デフレ経済下の金融システム） 9 金融政策はどう変わったのか②（金融政策の理論） 10 日本の貿易に何が起きたのか①（アジアとの貿易・自由経済と経済摩擦） 11 日本の貿易に何が起きたのか②（貿易の理論・貿易の構造） 12 円の実力（円とドル・世界の新通貨体制） 13 地球環境とエネルギー問題①（地球温暖化と京都議定書・生物多様性・循環型社会） 14 地球環境とエネルギー問題②（エネルギー問題・公害と外部不経済・環境対策） 15 日本の選択―未来世代と成熟社会―				
授業の留意点	講義の最後10分程度を使ってその講義に関する質問を書き、提出を求める（必須・評価対象）。受講人数によっては全てに答えられませんが、基本的には次の講義の冒頭で回答し、双方向の講義展開を行います。 新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通しておくとより理解が深まる。				
学生に対する評価	毎回の質問票（30点）、期末レポート70点の合計100点相当で評価する。				
教科書（購入必須）	使用しない。毎回資料を配付する。期末レポートの際に必要なので無くさずに保存しておくこと。専用のファイル等を用意することが望ましい。				
参考書（購入任意）	指定しない。必要があれば講義中に随時紹介する。				

科 目 名	国際関係論（国際政治を含む）				
担 当 教 員 名	東原 正明				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教(高公)：必修 教(中社)：選択
学 習 到 達 目 標	本講義では、現代の国際社会がいかにして形成されてきたのかという点に焦点を絞り、国民国家の現状とナショナリズムの作用及び第二次世界大戦後のヨーロッパ政治について学ぶ。この学習を通じて、各受講生が国際関係について理解を深めるとともに、現代世界がどのように構築されてきたのか、残された課題は何なのかについて自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。				
授 業 の 概 要	20 世紀、人類は二度の悲惨な世界大戦を体験し、その後の米ソ冷戦体制下では「核戦争の恐怖」の中での生活を余儀なくされた。そして 21 世紀に入っても、地球上には依然として戦火が絶えず、急進的なナショナリズムもいまだに大きな影響力を持っている。こうした認識の下、本講義では国際関係について主にヨーロッパを中心に検討する。まず、国民国家とナショナリズムについて考察し、その後、二つの世界大戦とその後の国際体制について検討する。さらに、冷戦体制と戦後ヨーロッパにおける平和の構築という観点から、分断国家であったドイツを中心としつつヨーロッパの動向を検討する。その上で、現代国家のあり方として重要な概念である福祉国家の現状についても取り上げる。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 「政治」、「国際関係」とは何か 3 「国家」、「ナショナリズム」とは何か 4 第一次世界大戦後の世界①ヴェルサイユ体制 5 第一次世界大戦後の世界②ファシズム国家の展開 6 第二次世界大戦後の世界①冷戦とは何か 7 第二次世界大戦後の世界②冷戦体制の現実 8 冷戦体制下の東西関係①西ドイツを例として 9 冷戦体制下の東西関係②ベルリン問題と東ドイツ 10 冷戦体制下の永世中立国－オーストリアを例として 11 冷戦体制の終結 12 ヨーロッパの統合 13 EU－国家連合から連邦国家へ？ 14 福祉国家の理論と現実 15 おわりに－国際関係をどう見るか 				
授 業 の 留 意 点	履修にあたっては、高校世界史、政治・経済の内容を再確認しておくことが望ましい。また、予習としては、日常的に世界政治の動向に関心を払い、新聞等を積極的に読んでおくことが必要である。復習としては、講義内容をふまえてノートやプリントを整理することが求められる。出席状況に十分留意すること。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験及び小テストの結果に基づいて評価する。配点は、定期試験を 80 点、小テストを 20 点とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	使用しない。講義時に資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	山本左門『現代国家と民主政治（改訂版）』（北樹出版、2010 年） 平島健司、飯田芳弘『改訂新版 ヨーロッパ政治史』（放送大学教育振興会、2010 年） その他は講義時に指示する。				

科目名	社会学				
担当教員名	小野寺 理佳				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	社会福祉：必修 栄養・看護：選択	資格要件	教(中社・高公)・社福・精保：必
学習到達目標	この講義では「社会的な見方」を学ぶ。身近な社会現象をとりあげながら、私たち個人の志向や行動がいかにか社会によって影響され、形成されているのかを考察する。看護・栄養・福祉・保育の専門職者にとって、社会学は、直面する諸問題を深く理解し実践に活かすために参照される学問である。「個人を規定している社会の枠組みの存在を理解し」、「そこに多様な価値観があることを知り」、「将来の実践者として、多様な個人をどのようにとらえることができるのかを考える」、この3点を到達目標とする。				
授業の概要	自らの経験や身の回りの現象から社会の仕組みへと思考を広げていけるように、具体的事象の説明と理論的説明をバランスよく配置しながら進める。受講者には空欄のあるレジュメを配付する。講義を受けながら自分でレジュメを完成させていくことで、重要な概念や語句を整理し理解していく。また、必要に応じて関連する雑誌記事のコピー等を配付し、さまざまな事象をより身近に感じ取れるようにする。さらに、リアクションペーパー等により自分の思考の特徴や傾向を点検し、振り返りの機会にする。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 社会学とは何か (1) 社会学という学問の特殊性 3 社会学とは何か (2) 社会学の学び方 4 意思決定と行為 (1) 「社会」とは何かを考える 5 意思決定と行為 (2) 社会における振る舞い方を考える 6 役割とは何か (1) 役割葛藤と役割期待 7 役割とは何か (2) 役割とどうつきあうか 8 集団と規範 (1) 集団の定義 9 集団と規範 (2) 社会における集団 10 見える権力、見えない権力 (1) 権力の定義 11 見える権力、見えない権力 (2) 現代社会における権力 12 社会と文化 (1) 価値を決めるのは誰か 13 社会と文化 (2) マイノリティとマジョリティ 14 社会と文化 (3) 差別とはなにか 15 まとめ 				
授業の留意点	講義予定は上記の通りであるが、進行状況や受講者の関心动向を考慮しながら、内容構成や順番などを調整する。テキストの内容すべてを順に取り上げることはしない。毎回の予習としてはテキストの関連箇所を読んでおくこと。復習としては、レジュメや配付資料を見直し、テキストの該当箇所を読むこと。				
学生に対する評価	レポートにより評価する (100点)。				
教科書 (購入必須)	宇都宮京子編 やわらかアカデミズム・(わかるシリーズ) 『よくわかる社会学』(第2版) ミネルヴァ書房 2009年				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	ジェンダー論				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教(高公)：必修 教(中社)：選択
学 習 到 達 目 標	ジェンダー・バイアスだけではなく、社会におけるさまざまな「差別」の存在に気づき、その解決のために力を発揮できることは、看護・栄養・福祉・保育の専門職者として重要なことである。この講義は社会学の一領域という位置づけであり、ジェンダーをめぐる諸問題を社会的にみていく。「職場、家庭、教育、地域など多くの場面に潜むジェンダー・バイアスを具体的に知り」、「社会において男性と女性に異なる場所が用意されていることの意味とそれをもたらす社会の仕組みを理解し」、「社会としてこれらの問題にどのように対処していくべきなのかを考える」、この3点を到達目標とする。				
授 業 の 概 要	女性・男性を取り巻く社会的現実および最近の変化の様相を取り上げ、考察する。セクシャル・マイノリティについても理解を深める。空欄のあるレジュメを配付する。受講者は、講義を受けて自らレジュメを完成させることにより、重要な概念や語句を整理し理解していく。また、必要に応じて関連する雑誌記事のコピー等を配付し、ジェンダーに関わるさまざまな事象をより身近に感じ取れるようにする。さらに、リアクションペーパー等により自分の思考の柔軟性を点検する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 ジェンダーとはなにか (1) 「ジェンダー」のとらえ方 3 ジェンダーとはなにか (2) ジェンダー概念の変容 4 恋愛とジェンダー 5 結婚・家族はどう変わったか—非法律婚のライフスタイル (1) 非法律婚とは何か 6 結婚・家族はどう変わったか—非法律婚のライフスタイル (2) 非法律婚が意味するもの 7 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (1) 生殖への4つの視点 8 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (2) 自己決定権について考える 9 学校文化とジェンダー (1) 学校という場所とジェンダー 10 学校文化とジェンダー (2) 顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム 11 メディアの性役割表現 (1) マスメディアのもつ影響力 12 メディアの性役割表現 (2) メッセージ伝達のメカニズム 13 介護とジェンダー (1) 介護は誰の責任か 14 介護とジェンダー (2) 家族とは誰のことか 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	講義予定は上記の通りであるが、進行状況や受講者の関心動向を考慮しながら、内容構成や順番などを調整する。テキストは使用せずレジュメを配付する。予習としては、日頃から新聞を読み、ジェンダーをめぐる最近の議論の流れや特徴、法律関係のニュースに注目しておくこと。復習としては、レジュメや資料を見直すこと。				
学 生 対 する 評 価	レポートにより評価する (100点)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	使用しない				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	化学				
担 当 教 員 名	小野寺 智子・丸山 洋介				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	食品衛生：科目A
学 習 到 達 目 標	化学は食品学や栄養学を学ぶための基礎科目として重要であるが、また日常生活の様々な現象を理解する上でも必要となる。高等学校で学習した化学の基礎内容を理解し、身につけ、自在に使えるようにすることを目標とする。				
授 業 の 概 要	化学の必要性は学科ごとに異なることに配慮しながら、授業を行う。主に無機化学の基礎について解説する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 化学を学ぶにあたって (小野寺) 2 化学の基礎知識 (1)：原子の構造、周期表 (小野寺) 3 化学の基礎知識 (2)：電気陰性度 (小野寺) 4 化学結合 (1)：原子間結合 (小野寺) 5 化学結合 (2)：分子間結合 (小野寺) 6 物質の状態変化 (小野寺) 7 濃度 (1)：パーセント、密度、含有率、希釈 (小野寺) 8 濃度 (2)：モル、モル濃度、ファクター (小野寺) 9 濃度 (3)：グラム当量、規定濃度 (丸山) 10 化学反応式と計算 (丸山) 11 酸と塩基 (丸山) 12 中和反応 (丸山) 13 酸化還元 (丸山) 14 酸化還元と化学電池 (丸山) 15 食品と無機化合物 (丸山) 				
授 業 の 留 意 点	授業および小テストの復習を通して、化学の基礎を身につけること。				
学 生 に 対 す る 評 価	講義中に実施する小テスト (30点) および課題に対する提出解答 (70点) で評価する。				
教 科 書 (購入必須)	田島真編著、基礎からのやさしい化学ーヒトの健康と栄養を学ぶためにー、建帛社				
参 考 書 (購入任意)					

科目名	生物学				
担当教員名	山本 達朗				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	
学習到達目標	ヒトを対象とする職業を目指すにあたっては、私たちの体の仕組みを含め生物学全般に対する理解を深めることは重要である。本講義では、私たちのからだを構成する細胞、細胞内で起きている代謝や遺伝子発現、そしてそれら細胞が集まり構成される組織や器官に関わる個体調節や生体防御などの機構について学ぶ。本講義を通じて生命の不思議さや生命活動の複雑さを理解してほしい。				
授業の概要	最初に、生物学の基礎的な事項について学ぶ。細胞の構造、細胞を構成する物質、細胞内での代謝、遺伝とDNA、遺伝子発現、細胞増殖そして発生および分化などについて学ぶ。後半では、ヒトに関する事項について学ぶために、組織学、器官、ホルモン、神経系、免疫について学ぶ。また、ヒトの疾患等に関わる領域として、微生物、ガンを取り上げ、さらにそれらを含めた治療に用いられるバイオテクノロジーの解説を行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生物学の基本 2 細胞の構造と機能 3 生物を構成する物質 4 栄養の摂取とその代謝 5 DNAの構造と遺伝のメカニズム 6 遺伝子発現のメカニズム 7 細胞死と細胞増殖の仕組み 8 生殖から発生の過程と細胞分化について 9 体を構成する組織 10 体を構成する器官 11 体内の恒常性の仕組み 12 神経系の構成と機能 13 生体防御システム 14 微生物の種類と感染の影響 15 細胞のガン化のメカニズムと生物学のまとめ 				
授業の留意点	資料を配布するので、配布資料の整理につとめること。				
学生に対する評価	定期試験（100点）で評価する。				
教科書（購入必須）	医療・看護系のための生物学（田村隆明著、裳華房）				
参考書（購入任意）					

科 目 名	生命科学				
担 当 教 員 名	林 要喜知				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	看護：必修 栄養・社会福祉：選択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>授業目標：現代社会に生きる私達は様々な観点から生命科学と関わりを持つようになっているが、本科目では、ヒトの遺伝のしくみ（人類遺伝学）や遺伝性疾患を学習し、それらの概要を説明できることを目標とする。</p> <p>受講者の到達目標：遺伝や遺伝病に関わる問題を正しく理解した上で、それらの知識を看護、栄養、社会福祉などの分野に応用する能力を養う。</p>				
授 業 の 概 要	<p>遺伝現象や遺伝学に関わる歴史的な出来事を発見の順で学び、人類遺伝学の概要を理解する。次に、ヒトの遺伝現象や遺伝病を例にして、個々の遺伝様式を詳しく学ぶ。さらに、遺伝病をもつ患者や家族への理解を深めつつ、生命倫理的な問題の具体例を学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 遺伝学の歴史：遺伝学発展の契機となる出来事に触れながら、人類遺伝学の概要を学ぶ。 2 遺伝学の基礎①：遺伝現象の理解に必要な細胞分裂や減数分裂の仕組みを学ぶ。 3 遺伝学の基礎②：DNA、遺伝子、染色体の関係を理解する。また、性の決定について学ぶ。 4 遺伝学の基礎③：メンデル遺伝や身近なヒトの遺伝現象を理解する。 5 人類遺伝学の基礎①：ヒトの遺伝性疾患の分類や家系図について学ぶ。 6 人類遺伝学の基礎②：常染色体優性遺伝や常染色体劣性遺伝について学ぶ。 7 人類遺伝学の基礎③：X連鎖優性遺伝やX連鎖劣性遺伝について学ぶ。 8 人類遺伝学の基礎④：ミトコンドリア遺伝や多因子遺伝について理解を深める。 9 人類遺伝学の基礎⑤：体細胞遺伝としてのがんについて学ぶ。 10 人類遺伝学の基礎⑥：エピジェネチクス(エピゲノム)について学ぶ。 11 人類遺伝学の基礎⑦：染色体異常症について学ぶ（1）。 12 人類遺伝学の基礎⑧：染色体異常症について学ぶ（2）。 13 分子生物学：分子生物学の基礎とその医療応用について学ぶ。 14 生命倫理と遺伝①：出生前診断の方法について学ぶ。 15 生命倫理と遺伝②：生命倫理の問題と遺伝カウンセリングについて学ぶ。 				
授 業 の 留 意 点	<p>プリントを配布し、板書を中心に説明する。講義内容あるいは関連した内容に関する質問は、講義時の出席カードやメール等で受け付ける。質問対応アドレス：yokichi@asahikawa-med.ac.jp</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>試験（70点）、レポート（20点）、授業態度（10点）として、それらの合計で成績を評価する。</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>教科書は使用しない。</p>				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<p>参考書として、エピジェネチクス（岩波新書）、ヒトの遺伝（岩波新書）、遺伝医学の招待（南江堂）、生命と環境（三共出版）などの自学自習を推奨する。</p>				

科 目 名	生態学				
担 当 教 員 名	佐藤 冬樹				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>名寄市のある北海道北部は、寒冷で多雪であるという国内では他に類を見ない自然条件を持っている。このような厳しい環境のもとで多様な生物群集が成立しているが、それらは日本よりもむしろシベリアや北米などの大陸に近い要素を持っている。</p> <p>この講義では、私たちの生活の基盤となる北海道北部を例にとり、自然環境の成り立ち、生物群集の構成、生活様式などを学ぶとともに、それらを統合した生態系の構造と機能についての理解を深めることをねらいとする。</p>				
授 業 の 概 要	<p>自然生態系に対する人間活動の影響についても学習し、北海道大学研究林の森林を利用し、研究林の教職員と連携しながら生態系の構造の保全や機能の維持のための方策についての討論もおこなう。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション：地球規模でみた道北の生態系 2 景観の成り立ち 3 自然環境の特徴 4 植物の特徴 5 森林の特徴 6 鳥獣の特徴 7 大型動物 8 水生生物 9 水・エネルギーの流れ 10 物質の流れ 11 生態系の利用 12 人間活動の影響—地球規模(1) 13 人間活動の影響—地球規模(2) 14 生態系機能の評価（総合討論） 15 生態系機能の維持・保全（総合討論） 				
授 業 の 留 意 点	<p>この授業は学外（北海道大学研究林における）野外学習が大半となる。フィールドや研究林庁舎での講義とともに、テーマを設けたグループ学習も行う。この授業の大部分は研究林に宿泊しながらの集中講義形式となるので、それにかかる費用（5,000円程度）は履修者から徴収する。また、宿泊施設の収容人数の関係上、履修者数には制限（30人程度）がある。履修希望者が定員を超過した場合は抽選により履修者を決定する。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>レポート（80点）、授業態度（20点）を加味して評価する。</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>テキストは使用しない。</p>				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	地球環境科学				
担 当 教 員 名	程木 義邦				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	環境科学という学問分野の全体像、地球規模および身の回りで起きている環境問題についての基本的な理解と知識を習得することを目標とする。				
授 業 の 概 要	近代科学の発展は、人間の生活に利便性と経済的な豊かさをもたらしたが、自然界に存在しない有害物質を生み、地球・地域規模の循環システムで処理しきれないような負荷をもたらした。また、森林伐採や海岸の埋め立てなどの大規模開発による環境破壊と併せ、人間の生存環境を著しく悪化させてきた。本講義では、地球規模・地域規模の環境問題について、自然科学・人文・社会科学の視点から概説を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境科学序論：環境問題とは？ 2 環境と科学の歴史：近年の人間活動と環境変化 3 環境と化学：化学物質と環境（1） 4 環境と化学：化学物質と環境（2） 5 地球規模の環境問題（1）：地球温暖化（1） 6 地球規模の環境問題（1）：地球温暖化（2） 7 地球規模の環境問題（2）：オゾン層の破壊と紫外線到達量の増加、生物への影響（1） 8 地球規模の環境問題（2）：オゾン層の破壊と紫外線到達量の増加、生物への影響（2） 9 地球規模の環境問題（3）：酸性雨による森林・湖沼への影響 10 地球規模の環境問題（4）：砂漠化 11 保全生態学（1）：なぜ、自然を守らなければならないのか？ 12 保全生態学（2）：地域的な開発による環境影響 13 環境を保全するために（1）：環境保全と開発に関する法制度とその問題 14 環境を保全するために（2）：市民活動の歴史。合意形成の重要性と科学者・行政の使命 15 環境を保全するために（3）：環境にやさしい生活の実践 				
授 業 の 留 意 点	地域的なものから地球規模の環境問題まで、幅広い分野の事例を取り扱う。なるべく分かり易く説明するが、興味がある部分については、各自、予習（インターネットでの検索など）を行うこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	講義の最終時限に小テストを行う。授業参加態度とテストの点数で成績評価を行う。 授業参加態度 40 点、小テスト 60 点				
教 科 書 (購入必須)	テキストは特に使用しない。講義時に資料を配布する。				
参 考 書 (購入任意)	特に無し。				

科 目 名	地域社会論				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職(中社・高公)：必修
学 習 到 達 目 標	①域社会をめぐる様々な議論について学びを深める。②現代社会の特色を把握し、教員や援助職として地域社会について学ぶことの意義を理解する。以上2点を到達目標とする。				
授 業 の 概 要	本講義は2部構成とする。2～6回は、地域問題のひとつとしての教育問題に注目し、教育をめぐる諸問題を、現代社会、地域社会が抱えている多様な問題と関わらせながら考察していく。続く7～14回は、学説史を踏まえながら、農村や都市等のかたちや現代社会における地域の課題について具体的に学んでいく。教育職・援助職として地域社会を把握する必要があるのか、保健福祉と結びつけながら講義を展開する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 教育問題から地域社会を見る〈仕事と若者〉 3 教育問題から地域社会を見る〈若者のアイデンティティ〉 4 教育問題から地域社会を見る〈エスニシティと教育〉 5 教育問題から地域社会を見る〈子育てとしつけ〉 6 教育問題から地域社会を見る〈いじめと不登校〉 7 地域社会の実態と課題を探る〈農村社会 1 制度としてのムラ〉 8 地域社会の実態と課題を探る〈農村社会 2 農村文化〉 9 地域社会の実態と課題を探る〈都市社会 1 都市とは何か〉 10 地域社会の実態と課題を探る〈都市社会 2 都市とエスニシティ〉 11 地域社会の実態と課題を探る〈住民運動〉 12 地域社会の実態と課題を探る〈福祉のまちづくり〉 13 地域社会の実態と課題を探る〈ソーシャルキャピタル〉 14 地域社会の実態と課題を探る〈北海道の地域社会〉 15 おわりに 				
授 業 の 留 意 点	講義の進行は「授業計画」にある通りだが、受講者の関心动向を考慮して内容構成を変更することがある。毎回レジュメを配付する他、必要に応じて、当該テーマに関わる論文や資料を配付する。課題等を提示する場合がある。受講生は「授業計画」をみて事前に関係する文献等から学習しておくことが望ましい。				
学 生 対 する 評 価	レポートにより評価する(100点)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	使用しない。				
参 考 書 (購 入 任 意)	「新版キーワード地域社会学」(地域社会学会編、ハーベスト社、2011年) 「地域の社会学」(盛岡清志著、有斐閣アルマ、2008年)				

科 目 名	北海道の地域資源				
担 当 教 員 名	石川 貴彦・関 朋昭・荻野 大助・小古間 甚一・古牧 徳生・加藤 隆				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	地域社会を支える様々な資源（自然環境・施設・文化・人など）への理解を通して、現在やこれからの地域課題や振興策への関心を高め、地域に学ぶ人材として、積極的に解決に関わろうとする意欲を育むことを、この講義の到達目標とする。				
授 業 の 概 要	道北地域にある地域資源を活用し、学生自らが地域に対する理解を深め、現在、そしてこれからの北海道の地域形成のあり方について考える。具体的には、なよろ市立天文台きたすばる等の名寄近郊の施設に訪問し、施設見学や職員講話を通して、地域文化の享受や保全、地域振興などの方策を学び、地域に積極的に関わる態度を身につける。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（石川） 2 なよろ市立天文台きたすばるでの講義・施設見学（石川） ※夜間集中開講 3 なよろ市立天文台きたすばるでの講義・施設見学（石川） ※夜間集中開講 4 村上春樹作品から見た北海道の地域資源活用（関） 5 士別市世界のめん羊館での講義・施設見学（関） 6 士別市世界のめん羊館での講義・施設見学（関） 7 鉄道遺産からみた北海道の地域資源活用（荻野） 8 キマロキ、北国博物館での講義・施設見学（荻野） ※土曜集中開講 9 キマロキ、北国博物館での講義・施設見学（荻野） ※土曜集中開講 10 なよろ健康の森でのパークゴルフ体験（小古間） ※土曜集中開講 11 なよろ健康の森でのパークゴルフ体験（小古間） ※土曜集中開講 12 名寄市内の寺社巡り（古牧） 13 名寄市内の寺社巡り（古牧） 14 教育という視点から見た地域資源（加藤） 15 講義のまとめ・地域資源の活用策について考える（石川） 				
授 業 の 留 意 点	訪問する施設によっては一部集中開講になるので、日程を各自確認しておくこと（例えば、天文台は開館時間の都合上、夜間開講になる）。また、施設までの移動に用いるバスの乗員数や、施設の収容人数の都合から受講者数を25人程度とし、定員を超過した場合は抽選により履修者を決定する。なお、施設の入館料や道具等のレンタル代は自己負担となる。				
学 生 に 対 す る 評 価	受講態度およびレポート課題（100点）によって評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	使用しない。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	使用しない。				

科 目 名	北海道の野外レクリエーション				
担 当 教 員 名	Martin Meadows				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	実 技
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>北海道の自然の豊かさを理解する。 それと付き合うことで見えてくる自分自身を発見する。 日常生活にある「拘束」から自由になることの意味を理解する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>名寄市周辺の河川、湖沼などでカナディアンカヌーを実践し、道北の山を自分の足で登ります。 夜はキャンプ場でテントを使用して宿泊します。</p>				
授 業 の 計 画	<p>河川等の状況は毎年著しく変化するために、実践のフィールドを何処にするのか、今の段階では提示できない。が、例年のプログラムを参考に載せておく。</p> <p>1 日目－和寒南丘森林公園でカナディアンカヌーの基礎技能講習 2 日目－和寒南丘森林公園から愛山溪温泉へ移動 3 日目－大雪山でハイキング 4 日目－溪流釣り体験</p> <p>開講時期は、8月の試験期間の終わりとお盆の間です。</p>				
授 業 の 留 意 点	<p>科目の特性上、履修定員を22名までとする。超えた場合は、抽選。 食料費など1万円程度の出費が求められる（昨年度は約9,000円）。 個人に関わる装備品は、可能な限り自分で準備する。 4月に事前説明会を開催するので、履修希望者は必ず出席すること。</p>				
学 生 に 対 する 評 価	<p>受講態度（80点）およびレポート（20点）を採点の対象とする。</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>使用しない。</p>				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	北海道の農と食				
担 当 教 員 名	今野 聖士				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	①北海道農業の現状、とりわけ北海道農業を担う各主体の役割を理解する。②農と食が様々な人々の不断的努力によって支えられていることを理解し、北海道の農と食の今後のあるべき姿を論じることができる。				
授 業 の 概 要	<p>北海道は日本の「食料基地」と呼ばれ、私たちの食生活で大きな役割を担っている。現在の北海道農業の特徴とその問題点を、とりわけ北海道農業を担う各主体の役割（農家や農協、地方自治体など）から理解できるよう講義展開を行う。また、普段何気なく食べている「食」がそれを支える様々な人々の不断的努力で支えられている事を理解出来るよう、座学だけでなく、実習や講演を通じて体験的に学習する。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回完結型の講義を行い、北海道農業の特徴を理解する。 ・ 名寄市内の農家で実際に農作業体験実習を実施し、地域農業・産業としての農業の特徴等について理解を深める。 ・ 農や食を支える各主体の担い手に講演をして頂き、その役割や苦労について理解を深める。 ・ 生産者と交流を持つことで、生消の相互理解を推進し、今後の消費者のあり方を考える。 				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 農作業体験実習①田植え・春作業 3 農作業体験実習②アスパラ収穫など 4 農と食の担い手による講演会① 5 農業をとりまく状況（通常講義） 6 農と食の担い手による講演会② 7 農作業体験実習③ は種・管理作業 8 農作業体験実習④ 除草・管理作業 9 北海道農業・農村の現状と課題（通常講義） 10 農と食の担い手による講演会③ 11 農作業体験実習⑤ 整枝・収穫 12 農作業体験実習⑥ 調整・収穫 13 農と食の担い手による講演会④ 14 生消交流・反省会① 相互理解の推進 15 生消交流・反省会② 生消協働 				
授 業 の 留 意 点	<p>通常講義・講演では、最後 10 分程度を使ってその講義に関する質問を書き、提出を求める（必須・評価対象）。</p> <p>講演者のスケジュールの都合上、通常開講とは異なる時間帯・曜日に開催することがある。</p> <p>農作業体験実習は名寄市内農家にて 3 回・各 3 時間程度（各回 2 コマ分相当）行う。通常講義とは異なる時間展開・準備が必要となる事がある。詳細は初回の講義時等に指示する。</p> <p><参考></p> <p>計 3 回・9:00～12:00 程度の時間を確保して実習を行う予定（大学集合・解散）。実習当日はジャージなど動きやすく汚れてもよい服装が必要。雨天時も基本的には決行するため、雨具の持参が望ましい。また、帽子・長靴・軍手は各自で用意する。（長靴は一定数レンタルあり）</p> <p>生消交流・反省会を学期末頃に開催する。日程は決定次第講義中に連絡するが、通常講義の開講時間とは異なる。</p> <p>以上のように実習や講演会、交流会といった座学講義ではないアクティブラーニングが中心のため、講義日程が通常開講日と大きく異なることが予想される。また、実習や交流会にかかる実費が合計 500～1000 円程度必要となる可能性がある。了承の上で受講のこと。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	農作業体験実習ごとの実習レポートで計 60 点、講演ごとの講演レポートで 30 点、通常講義の質問票 10 点、の計 100 点で配点し評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	使用しない。毎回資料を配付する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	必要があれば講義の中で別途指示する。				